

参加者印象記

グループ IA 氏名 青戸 和宏

全国の大学から代表者が一人ずつ集まるということで、私はどんな人に出会えるのかを楽しみにしながら、今回の WS に参加させていただきました。WS はとても楽しく、全国の意識の高い人と熱く語り合えたことは本当に貴重な経験となりました。自分と共通の考えを持っている人もいれば、今まで考えもしなかったような視点で物事を捉えている人もいて、さまざまな考えに触れることが出来たことは、今回の WS での一番の収穫です。また参加者全員がそれぞれの意見や考えを持ち、それを積極的に発言していたことには強い刺激を受けました。

今回の WS を通して、参加者それぞれが別々の大学で薬学を学んできたにも関わらず、共通して皆が今の薬学教育や薬剤師という職について問題意識を持っており、それを改善していきたいという強い意志を持っているということを実感しました。

今回のような貴重な経験をさせていただけたことを感謝するとともに、WS 運営関係者の皆様には深く御礼申し上げます。また熱く語り合い、私に刺激的な 2 日間を与えてくれた参加者の 6 回生にも重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

グループ IA 氏名 足立 暁

この度は日本薬学会学生ワークショップに参加させていただき、他大学の同期と話し合う機会を持てたことは本当に貴重な経験で、有意義な時間となりました。

あの場で初めて会う人たちとの討論に最初は不安を感じていましたが、いざ始まってみると意見が飛び交って自然とみんな熱くなっていったと思います。私とは異なった着眼点で物事をみている同期や、同じ視点から物事を見ていてもさらに進んでいるところまで考えている同期がたくさんいて、とても刺激的な二日間であると同時に自分の未熟さを痛感する二日間でもありました。卒業前のこの段階で気づけたこと、必ず社会に出てから生きてくると思います。

またワークショップを通じて、全国に薬学部の友人ができたことはとても大きな収穫です。進路は皆それぞれ異なりますが、薬学への熱い思いは皆一緒だと思います。みんなに負けないぐらい努力し、活躍しなければならないと思う二日間でした。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった開催関係者の方々、参加された各大学の薬学部の方々に深く御礼申し上げます。

グループ IA 氏名 神足 杏子

今回、日本薬学会第 4 回全国学生ワークショップに参加し、全国の薬学生で「私達が築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」というテーマに沿って討論し様々な意見を聞くことで、とても刺激になりました。私は、今回 World café や KJ 法を行うのが初

めてだったのですが、皆から活発な意見が出てくるので楽しく行うことができました。特別講演では、木下牧子先生に「医療人のプロフェッショナル」について講演していただきました。そこで、印象に残った言葉が、「医療人のプロフェッショナルとは、利他主義で患者の利益を最優先すること」という言葉です。現場に出たら、何があっても患者様の事を第一に考えるということを忘れずに、私もプロフェッショナルな薬剤師になりたいと思いました。

2日間と短い期間でしたが、自分の将来像にも影響を及ぼすような刺激のある充実した時間を過ごす事が出来ました。全国の薬学生と、このような話をする機会は少ないと思うので、今回WSに参加することが出来てとても良い経験になったと思います。

最後になりますが、このような素晴らしい機会を与えて下さり心より御礼申し上げます。

グループ IA 氏名 川端 秀明

今回のワークショップで、他の薬学部の方と意見や情報を交換し合えたことは、自分の将来を改めて考えるうえでとても貴重な機会となりました。ワークショップに参加した学生たちは「医療問題」について自分の意見を持っており、また、それを共有するための発言力も持っていました。そのため、GDでは自分では考え付かなかったような観点からの意見を多く聞くことができ、GDの大切さを再確認できたとともに、今後の薬剤師のあるべき姿を描くことができました。

また、情報交換会で学生たちと卒業後の話をすると、MRや研究職、公務員等の薬剤師以外の職種に就く方も多くおり、6年生の薬学部の活躍できるフィールドは広いということを実感しました。彼らと仕事に就いてからの夢を熱く語り合うことができ、自分の将来の仕事に対するモチベーションも上げることができました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生・先輩方に心より御礼申し上げます。また、この二日間で出会った友人たちに深く感謝いたします。

グループ IA 氏名 竹川 悠人

2日間という短い期間でしたが、密度の濃い時間を過ごすことができました。他大学の薬学生との交流は今までで多少はありましたが、ここまで熱く語り合う場というものはなかったもので、非常に刺激を受けました。時間がギリギリになっても終わらない議論や質問、その場にいられたことを嬉しく思っています。

そのようなSGDだけではなく、教育講演に関しても印象に残っています。木下牧子先生の医(薬)学はEBM、医療はNBMというスライドに感銘を受けました。NBMという言葉もその時始めて聞いた言葉でしたが、エビデンスに基づくだけではなく、そこから一歩踏

み出し患者さんのことを考えた医療を提供していくことが重要であることが分かりました。また私はコミュニケーション等に関して不安な点が多かったのですが、このワークショップを通して経験、自信、そして勇気これら 3 つの言葉を大切に、日々精進していきたいと感じました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった先生方、そして SGD などサポートしていただいたタスクフォース、卒業生のみなさんに心より感謝申し上げます。

グループ IA 氏名 都築 香里

全国の薬学生の仲間の様々な意見に触れることができ、ディスカッションすることで、視野を広げることができました。今まではこのような他大学の学生と意見を交換することもなく過ごしてきたので、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回のワークショップでは「私たちが築く新しい医療と社会」というテーマのもと、6年間の薬学教育を通して感じた現在の医療の問題点とその解決策について討議しましたが、グループ内でも、全体でも様々な意見が出て新鮮に思い、また意識の高さや医療の情報量多さを感じ、自分の考えの甘さに気づき反省しました。自ら進んで意見を発言し行動することと、自分とは異なる立場の人の意見を聞き話し合うことの大切さを実感しました。今回出会った仲間は社会に出て、病院や薬局で働いたり、企業や行政に行ったり、進学したりと、それぞれ進む道は様々ですが、それぞれ自分の立場から協力し合い医療に関わっていけたらいいなと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けてくださった日本薬剤師会の皆さまをはじめ、今回のワークショップ開催にご尽力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

グループ IA 氏名 船越 晴喜

第4回全国学生ワークショップ（以下 WS）に参加させていただき、全国の他大学の薬学生との討論や会話を通して、自分の意見・夢などを力強く伝え、私の想像をはるかに超える志の高い学生に多く出会いました。セッションの最初に、自分の薬学の世界に来た理由を思い返し、他の学生の理由も聞き、皆が国家資格を取った先のことを見据えて薬学に来たという人が多いことに驚きました。また、皆が実務実習を通し、不足している内容が多く、何とかしたいという思いが強くあったことにも共感することができました。

議論や講演会の中で出てきた、プロフェSSIONAL。6年制になったことで臨床的な薬剤師の育成に傾いているようにみえるが、薬剤師はひとえに科学者でもある。臨床で活躍するだけでなく、科学を日々追求し、研究も続けていく必要があることを再認識することができました。

多くの学生・後輩に、いろんなフィールドやWSに1歩を踏み出すことで、たくさんの良い刺激を受けることができる、と伝えたいです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった大学の先生、日本薬学会の関係者およびタスクフォースの先生方・先輩方に心より御礼申し上げます。

グループ IA 氏名 真鍋 ひとみ

六年制教育が導入されて、四期生となる私たちは、実習等で既に活躍されている先輩方の姿を目にしている。六年間薬学の素晴らしさももちろん感じているが、四年間で卒業して実務経験を二年間積むこととどちらが良いのかというジレンマにも囚われていることも事実である。

しかし、本ワークショップ（以下、WS）を通して、六年間薬学を学んだゆえに持つことができた強みに気づいた。新たなカリキュラムにより身につけた知識はもちろん、長期間の実習や研究期間で身につけることができた知識や技術である。ただ、これらは学んだだけでは意味がなく、強みだと自覚し、それを活かせるレベルまで自ら引き上げなければならない。

WSでは、薬剤師職だけでなく、様々な職種に進む同期生に出会うことができた。職種は違えど、この六年間で学んだ多くのことをそれぞれの道で活かすことができるであろう。そして、それこそによって新しい医療と社会を築くことで、六年制薬学部の真価が見えてくるのではないかと感じた。

卒業、国家試験合格という通過地点に捕らわれすぎず、その先にも活かせる能力を残りの学生生活で身につけ、WSで会うことができた同期生とともに新しい医療と社会を築いていきたいと強く思った。

グループ IB 氏名 小竹 優也

ワークショップを通じて、薬学教育や医療の問題点を同世代の学生と討議することで様々な角度から見ることができ、視野を広げることができたと思います。現在の薬学教育に不足していると感じたことを他の薬学生も感じており、「なぜ不十分と感じるのか」、「不十分さを補うためにはどうした良いか」をディスカッションできたことはとても刺激的であり、他では体験できない貴重な経験となりました。また、様々な意見に触れることで自分自身に不足していることを見つけることができ、今後取り組むべき課題が何であるかを見つめ直す良い機会となりました。

医療の問題点について議論した際に出てきた話題に「薬剤師が社会に対してできることを発信する必要がある」という意見がありました。薬剤師としての能力を高めることはもちろんですが、患者さんや他の医療従事者に薬剤師ができることをしっかりと示すことで

初めてその能力を発揮できるのではないかと考えさせられました。そして、よりよい医療を提供していくためには受け身になるのではなく「能動的に行動する」ことが薬剤師に求められていると感じさせられました。

最後に、ここで得られた貴重な意見や考え方を社会に還元し、全国の薬学生と共に良い医療・薬学を築き上げていきたいと思えます。

グループ IB 氏名 佐久間 けい

日本薬学会第4回全国ワークショップに参加させて頂きました。これまで6年間薬学部で学んできた中で、他大学の学生とこのように1つのテーマに向かって討論することはなく、とても有意義な2日間を過ごす事が出来ました。

「私達が築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」というテーマで、現在の医療の問題点からその解決策を考え、討論していく中で仲間の様々な考えに触れる事ができ、また自分だけでは導き出せないような考えもSGDを通して討論していく事で生まれ、最終的に、1つのプロダクトを完成させる事が出来ました。このような経験を、今後薬剤師として患者様のためにチーム医療の1員となり活かしていきたいと思えました。また、今後進む進路は異なりますが、同じ薬剤師として社会に貢献していくたくさんの仲間に出会え、繋がれた事をととても嬉しく、今後も大切にしていきたいです。

最後になりますが、今回このような貴重な場を与えて下さった関係者の皆様、2日間共に討論を交わしたIB班の仲間感謝します。

グループ IB 氏名 佐々木 かな恵

2日間にわたるWSを通して、「薬剤師」という職業について真正面から向き合い、そして自分の中の「仕事」に対する考え方が大きく変わりました。

どんな薬剤師になりたいのか。果てにはどんな人間になりたいのか。

仕事の先の人間力に至るまでを考える機会を与えて頂けたと感謝いたします。

まず感じたことは、薬剤師の専門は薬学ですが、薬とは治療を行う上で殆ど必ずと言っていいほど用いられます。そのために、薬剤師はスペシャリストであると同時にジェネラリストであることを求められる立場であるのです。

身体を患った時、人は心も多かれ少なかれ患います。そんなとき、身体のみケアでなく、人のケアができる医療を提供できたら、と私は考えます。コンプライアンスではなく、アドヒアランスの向上を図りたいのです。そして、患者さんの視点から、充実した医療を提供するためにはチーム医療の連携は不可欠です。

そのかけ橋となるため、薬剤師は専門知識と同じくらい人間力が必須となります。WS参加学生は一人一人がそんな薬剤師となる為の意識と、人としての関係を築く力を兼ね備えていました。

そして様々な意見交換を重ねるうち、どんな仕事をするかは、どんな生き方をしたいのかに繋がるように思いました。仕事をする事は、人との関係を築いていくこと。ゴールも正解も無いからこそ、日々切磋琢磨する向上心が根幹に必要であるということ。

今回のWSで得たモチベーションを忘れることなく、これからの努力に繋げようと強く決意しました。最後にはなりましたが、今回のWS開催にあたり尽力して下さった関係者の皆様、諸先生方、2日間共に切磋琢磨し合った4期参加学生の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。

グループIB 氏名 瀧 千尋

私たち現役薬学生の意見・考え方が、未来の薬学生の教育充実につながるかもしれない。そう思うと非常にやりがいがあるWSだと思い、期待を寄せて参加した反面、人見知りな分、ずっと孤独かもしれないと不安が大きかった。しかし、他の薬学生は皆友好的で且つ未来の薬学教育、薬剤師の有り方を熱心に考えている人ばかりで、発言力・行動力もあり、大きな刺激をいただけた。未来の薬学教育について熱く議論できたのは幸せだったが、それ以上に強い意志と希望を持つ「仲間」がたくさんできたことが一番の幸せだったかもしれない。将来の自分について語り合う場面で、私とは違う道を歩む人がほとんどだった。少なくとも似た道を歩む人は見当たらなかった。しかし、別々の道に進んでもどこかで繋がっているかもしれない、助け合うかもしれない。そう思うと、仲間を作っておく重要性・楽しさというものを改めて実感できた2日間であった。全国の熱心な学生たちと語り合えた2日間は貴重な財産となり、この仲間とまた集まりたい。そう思える有益なWSとなった。

グループIB 氏名 松下 俊介

全国学生ワークショップに参加し、全国の薬学部生と熱く議論を交わせることができたのは、大変貴重な経験となった。同じ薬学部生といえども、住んでいる地域の違いや、将来の進路の違いなど背景は多様だった。そのなかで、他大学での実習中のエピソードや取り組みなど情報交換でき興味深かった。多様な背景の学生が全国から集まったが、「薬剤師の地位が低い」、「薬剤師の社会的信用が低い」という点について多くの参加者が共通して問題意識を持っていた。薬剤師の技能・知識の底上げの必要性が再認識され、大学教育や卒業後の研修の充実、そして薬剤師自身の責任感・使命感が重要であるという認識が共有できた。薬剤師の将来像が不明確との意見もあった。まず薬剤師自身が考え、議論し、そ

して積極的に意見を社会に向けて発信していくべきであると考えた。また、このような機会がより増えれば、より多くの人と情報や意見の共有ができ、今後の薬剤師の社会的活動に有効ではないかと考えた。

ワークショップの参加者には崇高な使命感を持って将来の夢に臨む人が多く、大変刺激になった。このような人々とともに、将来この国の医療をさらに良くしていきたいと考えた。

グループ IB 氏名 山下 拓真

今回、第4回全国学生ワークショップに参加させていただいてもっとも印象的だったことは、他の大学の学生と自分では考えていることが想像以上に違っていることでした。学んできた環境や目指すものが異なる学生が集まり、現在の医療の問題点に関するテーマでの議論を行う中で、今までは気づいていなかった問題点やその解決策が多くあげられ、勉強になりました。また問題意識を強く持ち、問題点を自ら解決しようという意欲を持った学生が多く、交流する中で良い刺激を受けました。

全員が初対面ということで難しい部分もありましたが、ワークショップに集まってきた学生は非常に積極的で、活発な議論ができて良かったです。また、このワークショップを通じて多くの他大学の学生と交流が深められたことも大きな収穫でしたし、非常に楽しく2日間を過ごすことができました。先生方をはじめ、ワークショップ開催に携わった方々に感謝いたします。今回得られた成果を自らの今後に活かしていくとともに、参加していない学生とも共有していきたいです。

グループ IB 氏名 山田 梨愛

今回のWSを通して、大変貴重な経験が出来ました。SGDや討論では多様な意見が飛び交いましたが、環境や視点は違っても、どの学生も医療に対して同じ熱い思いを持っているということに刺激を受けました。各大学の薬学生と今後の医療・薬学に対する考え方を共有するだけでなく、教育講演や、先生方、先輩方を交えた討論等を通して見聞を大きく広げることが出来、大変多くのことを学んだ2日間でした。このWSで得たことを今後の学業や将来の糧にすると同時に、後輩や周囲に発信していきたいと思います。

薬学部卒業生の進路は多岐にわたります。WSを終えて、薬学をベースとする私達が今後の医療を考える上で、各職種の専門性を生かして今後の医療・薬学を支えていくことが大切なのではないかと改めて感じました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さいました関係者の皆様および温かく支えて下さったタスクフォースの先生方、先輩方に心より御礼申し上げます。また、2日間共に過ごした同期の皆さんに深く感謝致します。WSの限られた時間の中ではあまり

交流できなかった方もいましたが、今後もこのつながりを大切に、切磋琢磨できると嬉しく思います。

グループ IB 氏名 渡辺 圭

私は日ごろから他大学の学生とは交流がなかった為に今回のワークショップはとても新鮮で、刺激的なものでした。自分も将来の薬剤師に必要なものや、教育についての考えは頭にはありましたが特に学内などでは発言する場はありませんでした。このような意識の高い学生が集ったWSでは、SGDでは自分の考えを主張できたとともに他の学生からの意見はとても参考になることばかりで自分にとってプラスなことしかありませんでした。

「薬剤師は今のままではいけない」「今足りないもの」など、活発な意見がたくさん出てみんなが感じている現状というのは同じなのだなと感じました。

たくさんの意見が出たからこそやらなくてはいけないことが少しずつ明瞭化されてきていると思います。しかし今回のこのワークショップに限ることではありませんが、このような意見を実際に行動に移さなければいけないと思いました。案だけあげて実行しないでは意味がありません。実際に行動、実践をして、今後の薬剤師領域に変化をもたらせられるように努力していかなければならないと感じました。

今回のワークショップを今後のモチベーションにして頑張っていきたいと思います。

グループ IC 氏名 足立 愛

近隣の大学の学生とは実習等で触れ合う機会がありましたが、今回のように全国の大学の薬学生と情報交換を行い、意見をぶつけ合うことは、非常に貴重で有意義な時間でした。WS終了後も5年半過ごした学生生活を振り返りました。WSでは大学のカリキュラムや実習に対する物足りなさや、不満をよく聞きました。私も、もっと現場で実践的なことを学べたらよかったと思う部分はありましたが、幅広い学問において十分に基礎を学ぶことができ、さらにコミュニケーション能力も養われたと感じています。このような点が、WSでも意見がでた「薬学部の将来の幅広さ」に関与するのではないかと考えます。今後、私は日本において現時点では医療とは少し離れた場所で、社会貢献する予定です。来年度からコアカリキュラムが変更となり、ますます薬学部や薬剤師のあり方が変わっていくように感じますが、薬学部の将来、薬剤師の活躍するフィールドが今後も広くあり続けるよう、私自身も努めていきたいと、今回のWSを終えて強く思いました。

グループ IC 氏名 大平 直樹

今まで他大学の薬学生と意見交換をする機会がなかったため、今回のワークショップで様々な価値観、考え方に触れられたことはとても有意義でした。また、参加した学生の意識がとても高いことに驚き、私自身もっと意識を高く持ち、残りの学生生活を送ろうと強く感じました。

今回のワークショップで最も心に残ったことは、私が今まで疑問に感じていたことを参加した多くの学生と共有できたことです。それは、医療界において薬剤師の立場が低いことは薬剤師のアピール不足に問題があるのではないかということです。しかし、2日間を通してこの問題は今後、解決されると感じました。なぜなら、1～3期の先輩方はもちろん、参加した学生も非常に意識が高く、発表や質疑を行う際のアピール力は素晴らしいものと感じたからです。また、薬剤師の地位に問題意識を持った薬剤師が多く社会に出ていけば問題は解決され、今後の薬剤師の世界はもっと明るく、もっと活発なものになっていくと感じました。

最後になりますが、今回のワークショップの開催にご尽力頂いた方々に深く感謝いたします。この経験を活かし、薬剤師として社会に貢献できるよう日々研鑽を積みたいと思います。

グループ IC 氏名 小西 あかり

これまで、他大学の薬学部生と交流する機会ほとんどなかったため、全ての経験が新鮮で、多くの事を得ることができました。

特に、色々な目標を持った方の話を聞くことで、自分を見つめ直すことができたことは、私にとって得難い経験となりました。そして各々が抱く思いは違えども、皆これからの医療を良くしていきたいという気持ちを持って、日々学んでいるのだということを実感することができました。

また、2日間を通して行われた討論の中では、私だけでは考え付かないようなアイデアを提案してもらうことで、それをきっかけにまた新しいアイデアに気付くことができました。討論も大いに盛り上がり、このような議論、交流の場がもっと増えてほしいと強く感じました。

このワークショップを通じて、高い目標を持った方々から刺激を受けたことで、もっと学び、もっと視野を広げていきたいという私自身の成長への意欲を高めることにつながりました。このかけがえのない経験をこれからの将来に活かすべく、日々取り組み続けていきたいです。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせていただけたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。

グループ IC 氏名 高橋 沙季

今回このワークショップに参加出来たことは、私にとって多くを学ぶ場であり、また自らの薬剤師としての方向性を再確認し、決意を固める場となりました。

参加する前は、全く面識のない人々と二日間過ごすことに不安を抱いていましたが、同じ志を持つ者同士、すぐに打ち解けることが出来ました。

ディスカッションを通じて、薬剤師は数限りある国から認められた資格であり、国民への医療を担うものであるため、必然的に社会情勢へも目を向け、その時代のニーズ応えなければならないことを学びました。

社会に無頓着な私でしたが、これからは日本全体へ、世界へ目を向け、広い視野を持った薬剤師を目指したいです。

ここで学んだことを友人へ、後輩へ伝えることが、今私に課せられた使命だと思っております。

また、このワークショップで高い志を持つ全国の薬学部生と出会えたことを大変嬉しく思います。ここで終わらず、ここから更なる輪を広げていきましょう。

最後になりましたが、今回のワークショップの開催にご尽力頂いた皆様に深謝致します。

グループ IC 氏名 津倉 秀幸

日本薬学会第4回全国学生ワークショップに参加させていただき、とても貴重な2日間を体験することが出来ました。World caféでは短い時間の中で自分の考えを整理して、発表出来る素晴らしいセンスの方ばかりで胸が躍りました。その後のSGDは今まで経験してきた中で一番楽しいSGDで、皆それぞれ筋の通った考えを持っていて、良い意見は良いと互いを評価し合える様はとても勉強になりました。

全体発表や総合討論では印象に残るものが多く、患者を中心にチーム医療を行うのではなく「患者の希望を中心にして、患者自身もチーム医療に参加していく」という考えや、「薬害は薬学の責任であり、薬剤師は薬害から目を背けるわけにはいかない」といった厳しい意見が自分の視野を大きく広げてくれました。木下牧子先生の講演からはNarrative-based Medicineという理念を学ぶことができ、自分の倫理観に新たな芽が芽吹いた気がします。

私は今回のWSで得た仲間との関係を維持しつつ、さらにWSの輪を広げていければと考えています。その為ならば努力を惜しむ気はありません。そして今の気持ちを忘れず薬剤師として自己研鑽に励んでいこうと思います。

最後になりましたが、このような機会を設けて下さった日本薬学会ならびにタスクフォースの皆さま、先輩方、関係者の皆さま、そして同じ時間を共有した仲間たちに深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

グループ IC 氏名 鶴留 優也

全国の薬学生と意見交換や討論することができ、新鮮で刺激的なワークショップでした。時間が短くもっと話を聞きたかったと感じましたが、有意義な2日間となりました。

討論中印象に残ったことは格差です。地域格差や教育格差、経済や設備などあげればきりがないほどの格差が存在するということを考えさせられました。また、医療の現場だけでなく各大学の環境や講義・実習内容、教育体制にもあることを実感しました。

SGDでは、大学ごとの色もあり学生の意見も異なっているものが多く、結果として共感できる意見だけでなく相対する見解と触れることができました。その中で良い点を深めるだけでなく、異なる意見から新しい自分の考えを得ることができたと思います。改めて教育に王道はなく、皆違うからこそ良いのだと感じました。

今回のワークショップは、意見を深め新たに視野を広げることができる良い機会となりました。今回得たことを友人や後輩に伝え、共有していきたいと思います。機会があればこれからも参加させていただきたいなと感じました。ぜひ今後もこのようなワークショップが続くことを願っております。

グループ IC 氏名 増渕 龍一郎

今回のワークショップにて各々が持つ意見をぶつけ、討議しながらお互いが打ち解けていくなかで私は今まで持っていた薬学への考えが更に刺激されていくのを感じた。討論の中では薬剤師からのアプローチだけに限らず、薬学に対する多くの視点を考える機会が多く、今まで抱えていた薬剤師像のなかに固まった考え方があったことに気づかされることもあった。さらに情報交換会などを通して行政の方の話を聞くことができたのも新鮮であり貴重な時間であったと思う。

今回の討議の中では医療と携わるにあたって医師や他職種とのコミュニケーションや個人の意識の向上が必要であるというような意見が多く出ていた。しかしながら振り返ってみると、薬剤師として医薬品のことや患者への指導方法などが深く話されていく中で、実際に薬を飲む患者の精神状態や心理についてもっと焦点を当てて話すことができるとまた一味違うものになったのではないかと思う。

タスクフォース、多くの意見交換をさせていただいた皆さん、そしてチームの皆さんに感謝すると共にこのつながりを今後も大切にしていきたい。この新しいつながりと刺激が今後の私たちにどのように作用していくのか楽しみである。

グループ IC 氏名 山岸 優真

今回、2 日間にわたる日本薬学会全国学生ワークショップに参加させて頂き、全国の 69 大学の薬学生と現在の医療と薬学教育の課題についてディスカッションを行いました。参加者の方々は皆問題意識を持ち、それを他者に明確に伝えることができる方々でしたので大変刺激的な 2 日間となりました。また、所属大学も進路も異なる方々とディスカッションを行うことで、自分が今まで目を向けていなかった問題に気づくことができ、より広い視野で物事を考え、発言することができました。

現在、登録販売員制度や OTC 医薬品のネット販売の解禁などで、本来薬剤師が責任を持って担うべきである業務が薬剤師の手から離れつつあります。今回のワークショップを通じて、これからはそれらの業務をいかに守るか、そして薬剤師の職能をいかに広げていくかが課題であると痛感しました。さらに、これらの課題を解決するためには患者様と薬剤師の信頼関係が不可欠であると感じました。私の進路は病院・薬局薬剤師ではありませんが、「自分の仕事の先には患者様がいる」ということを常に意識して日々行動していきたいと考えました。

最後になりますが、このような貴重な機会を設けてくださった関係者の皆様とワークショップ参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

グループ IC 氏名 高橋 沙季

今回このワークショップに参加出来たことは、私にとって多くを学ぶ場であり、また自らの薬剤師としての方向性を再確認し、決意を固める場となりました。

参加する前は、全く面識のない人々と二日間過ごすことに不安を抱いていましたが、同じ志を持つ者同士、すぐに打ち解けることが出来ました。

ディスカッションを通じて、薬剤師は数限りある国から認められた資格であり、国民への医療を担うものであるため、必然的に社会情勢へも目を向け、その時代のニーズ応えなければならないことを学びました。

社会に無頓着な私でしたが、これからは日本全体へ、世界へ目を向け、広い視野を持った薬剤師を目指したいです。

ここで学んだことを友人へ、後輩へ伝えることが、今私に課せられた使命だと思っております。

また、このワークショップで高い志を持つ全国の薬学部生と出会えたことを大変嬉しく思います。ここで終わらず、ここから更なる輪を広げていきましょう。

最後になりましたが、今回のワークショップの開催にご尽力頂いた皆様に深謝致します。

グループ IIA 氏名 秋本 純矢

私は、今回のワークショップを終えて、自分自身の考えを持ち、そこに様々な意見が加わることにより新たな考えを持つことができることや様々な考えを持つ仲間と知り合えることなど、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

特に印象的だったのは、薬剤師の功績によりランキングをつける案や慢性疾患に対する処方権を薬剤師が持つことなどユニークな案が出たことでした。私自身は倫理的な観点、また安全性からその意見には反対でしたが、その案が出るまでの議論の過程を知り、様々な観点から薬剤師の業務、立場などは変えていけるのだと感動致しました。

今回のワークショップを通して、自身の考えを見つめなおし、様々な意見に触れることが出来たことは、これから自身がどのような薬剤師になるのか、どのような医療を築いていけるのかなど、未来を考える上でとても重要なことだと思います。もし機会があればまた参加し、いろいろな考えに触れていきたいと思いました。

このような機会を与えてくださった日本薬学会、タスクフォースの皆様、全国の薬学生にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

グループ IIA 氏名 石橋 佳恵

WSを通じ、薬剤師には多くのことが求められていると感じた。病院や薬局では、強固な医療チーム体制のもと患者さんの治療にあたる。地域に密着し、子どもから高齢者まで広く住民をサポートし、健康増進に努める。そして日常生活から闘病生活まで、すべてにおいて薬剤師はその職能を発揮することができ、していかなければならないと感じた。医療従事者や患者さんとの信頼関係構築には、自らの成長はもちろん、積極的に行動することが欠かせないと感じた。

さらに卒業後の進路は、病院・薬局薬剤師のほか、行政や製薬企業、研究機関などさまざまであることも分かった。WSでも、「薬学生は大学生活の中で幅広い分野を学べる」という意見が多く挙がり、これはまさに進路の多様性にも反映されているのではないだろうか。今後社会人となって、各方面に広がった薬学出身者が連携することにより、さらなる製薬業界の発展と、より高度で円滑な医療体制が実現できるのではないだろうか。

常に一人ひとりが、薬学の現状や将来について考え、問題意識をもって取り組むことが大切であると感じた。その契機として、今回のような合同WSは非常に貴重な経験となった。

グループ IIA 氏名 川原 真美

全国の6年制4期生が意見を交わしあった今回のワークショップ。様々な意見・将来への熱い想いを共有することができ、大変実りのある刺激的な二日間でした。コミュニケーション力・発信力に優れた方々ばかりで圧倒されましたが、World café や SGD での議論を通して自分の視野がさらに広がったように思います。今回、「私たちが築く新しい医療と社会」をテーマに、6年制で学んで充実した実務実習を経験できた私たちだからこそ感じることや将来に抱く期待を存分に共有することができました。また、木下牧子先生による講演は大変印象深く、真のプロフェッショナルとは何かを教えてくださいました。医療においてEBMの考えはとても大事ですが、すべての患者さんに一人一人の物語があります。その背景を大切に一人一人に寄り添うことで初めて“医学”が“医療”に変わるのだというお言葉には大変感銘を受けました。社会的使命を伴う Professional として、医学の進歩に置いていられないような医療を目指していきたいと思います。

最後に、たくさんの尊敬できる仲間との出会いが何よりの喜びです。この仲間たちと築いていく新しい医療と社会が楽しみです。自分のこれまでを振り返る、また将来について考える貴重な機会を与えて下さった皆様に心より感謝申し上げます。

グループ IIA 氏名 木原 康宏

今回特に印象に残っているのは、現在の薬学教育や医療現場での薬剤師の存在感に不満を持っている学生が少なくないという事です。まず教育に関して、“自分が置かれている環境に不満を持つ”という事はこの業界に限らず誰しもが感じる事だとは思いますが、140日間の実務実習を経た学生による「大学教育と現場にギャップを感じる」という不満はその他のそれとは重みが違うと思います。実は私自身も感じていた事で、普段必死で勉強している事が実際の現場ではほとんど活かされる場面が無い、或いは薬剤師自身が活かしきれていないのではないかと議論の中でも挙がりましたが、そのような事が薬剤師の存在感に不満を感じる原因の一つにあると思うので、大学で学ぶ事が現場でどのように活かされているのかを今以上に学生に伝えながら、学生を教育していく必要があるのではと感じました。また、「薬剤師は他の医療スタッフに比べてコミュニケーションを取る事を苦手としている」と私を含め何人かの学生から挙がりましたが、今回の様なWSは有効な対策になると思います。欲を言えば、医学や看護の学生ともこのようなWSを行い学生の頃から他の医療スタッフとコミュニケーションを取る訓練を行っていければ良いと思いました。最後になりましたが、WSに参加することで一生付き合っていきたいと思えるような仲間に出会えた事、その仲間達と意見を共有出来た事は非常に貴重な財産になると思います。このような機会を与えて下さった皆様に感謝の意を表したいと思います。

グループ IIA 氏名 佐藤 和貴

第4回全国学生ワークショップに参加させて頂いたことに大変感謝しております。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

ワークショップでは全国の薬学生と議論を重ね、それぞれの大学によって学習内容や環境、進路などに大きな違いがあり、同じ薬学生でもこうも考え方が違うのかと非常に驚いたことが印象的でした。考え方の大きく違う集団において、一つの課題に対する答えを一つにまとめることは大変難しいものでした。しかし会の最後にはあんなにもバラバラだった意見が一つにまとまり、綺麗な道を作ることができ、楽しさと感動を覚えました。

『誰かがやってくれるのではなく、自分から始める』というタスクフォースの先生の言葉が頭に残っています。今回ワークショップに参加し、自分の学んだ薬学について改めて考える機会を持つことは、自らの過去や将来を考える上で非常に重要なことだと感じました。私は今後、自らが中心となり、同期や後輩達にこのワークショップで学んだことを伝えようと考えています。

グループ IIA 氏名 高井 健司

日本薬学会第4回全国学生ワークショップに2日間参加させていただき、全国の薬学生とのディスカッションは大変実りある内容でした。特に各大学では実践的な薬学教育カリキュラムが生まれ、自身の大学のカリキュラムとの違いを知ることができました。薬剤師の6年制薬学生が病院・薬局薬剤師として従事するだけでなく、行政・研究そしてMRなど職域を拡大しこれからも活躍していく可能性をSGDや情報交換会等を経て理解を深め、薬学生の将来の多様性を再認識することができました。そして議論を重ねるにつれて、どの学生も自身がどのように患者や社会に貢献していくかを常に考え、自ら行動に移していることを感じる事ができました。特別講演の話のように薬剤師が単なる「specialist」ではなく社会的使命を担った「professional」でなければならないと感じた瞬間でした。最後になりましたが、スタッフの皆様本当にありがとうございました。この経験を糧に行政薬剤師として社会に貢献できるよう日々研鑽を積みたいと思います。

グループ IIA 氏名 平野 愛子

今回のワークショップでは、各大学の同期たちとたくさんの意見を交わし、それぞれの志の高さに非常に刺激を受けました。グループワークでは、薬剤師の世間一般のイメージが「調剤する人」ととどまっており、薬剤師自身も受け身で消極的なイメージであることから、薬剤師は6年制になって調剤するだけでなく、薬の専門家として、処方設計にかかわっていただけるだけの教育を受けてきているということを世間にアピールし、もっと患者さんに必要とされる存在になっていかななくてはならないという考えに至りました。薬剤師が

患者さんの気持ちに寄り添い、患者さん第一に適切な薬を提供すべきであることは明らかなので、ではどうすれば患者さんに信頼され、薬剤師の職能を発揮することができるのかと考えると、私たち6年制薬学教育を受けた卒業生が社会に出て、自信をもって薬剤師の仕事を全うし、いかにして信頼を勝ち取るかがカギだと考えます。私は今後、薬局薬剤師になり、地域のお薬講座などで薬や病気に関する正しい知識を広め、慢性疾患の患者さんや年配の患者さんに渡した薬を飲み忘れることなく服用してもらい、一人でも入院する患者さんを減らし、患者さんの健康増進や日本の医療費削減に貢献したいです。

グループ II A 氏名 森 数馬

本ワークショップを通じ、貴重な経験をすることができた。全国各地の学生と接することで自分が所属する大学と他大学との違いを知り、海外留学制度や長期の実務実習制度など、特色ある制度があることを羨ましく思うこともあった。また、それぞれの将来について熱く語り合うことで薬学部の多様性を確認でき、非常に良い刺激を受けた。ワークショップにおいては、とくに自分の意見を簡潔にまとめて発言していくことの難しさを痛感し、精進していかななくてはならないと感じた。

薬学教育が6年間になったことで病態などの知識が身についた一方、薬害のように薬に関わる負の歴史も学習するようになった。そして調剤・鑑査ミスによって薬剤師が裁判で議論の対象の一つとなった現在、保守的な姿勢になりがちな所を感じてしまう。しかし、タスクホースの先生よりいただいた「現状の問題を改善していくためにも、勇気の一步を踏み出すことが大切である。それだけの知識を6年間で得ているはずだ」という言葉はとても勇気をいただいた。勇気の一步を踏み出せるよう知識と技術を研鑽し、培った経験と融合させ、現在医療現場で取り巻いている問題に積極的に取り組んでいける人物になりたいと思った。

グループ II B 氏名 大野 優美

日本薬学会第4回全国学生ワークショップに参加させて頂き、今まで薬学部で過ごしてきた日々・学んできたことを振り返ると共に、これから医療の中で私は薬剤師として何をすべきなのか何ができるのか、深く考える機会となりました。

「私達が築く新しい医療と社会」をメインテーマにディスカッションを行いました。多種多様な未来展望を持った他大学の方々と意見を交わすことで、今まで自分には無かった考え方や見方に気付かされ、とても良い刺激を受けました。進む職種・思い描く未来は違っていても、「日本の医療のために・患者さんのために、薬剤師としてどう生きるのか」個々に強い志をもっているように感じました。

私達は今まで大学という狭いコミュニティの中で過ごしてきましたが、今後社会に出て

今回のように様々な意見を聞き討論し視野を広めながら、薬剤師として人として成長していきたいと思います。

最後になりますが、今回このような貴重な経験を得る機会をくださった関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

グループ II B 氏名 小田切 誠

今回、全国の70名近い学生が集まるワークショップに参加し、現在の薬剤師や医療業界全体の問題点について、薬学部の学生という立場からディスカッションさせていただきました。これに似た機会は大学内や実習施設等でも経験させていただきましたが「地方での医療人不足問題」など、東京近郊に住む私には身近に感じる事の難しい問題を真剣に考える地方の薬学生の話聞き、自分の視野の狭さを感じました。

高齢者社会に伴い複雑になり続ける今後の医療を考える上で、多角的な視点で様々な問題を考えることは必要不可欠な能力だと思います。本ワークショップに参加させていただくことで、この重要性を再認識する事が出来ました。

また、主に同じ班のメンバーに限られはしましたが、全国の薬学生との人脈を築ける貴重な場にもなりました。

最後になりますが、薬学部の学生が全国各地から集まるという大変貴重な場で生まれた様々な意見が、ただの机上の空論に終始するのではなく、医療現場や薬学部教育に実際に反映される未来を強く願います。

グループ II B 氏名 北野 あすか

ワークショップの2日間は「これからの未来は私達が築いていくのだ」ということを実感でき、終わった後も心に残ることや素敵な仲間との出会いが沢山あった貴重な機会となりました。

最も印象的であったことは「自分のいるところ」だけでなく「社会全体」、「現在」だけでなく「過去と未来」を考え行動していこうとする様々な視点です。例えば私達の班では「医療の中心に治療がある」ことをとりあげ、予防やセルフメディケーションに薬剤師がどのように携わるかという主題を掘り下げましたが、様々な職種からのアプローチや連携のアイデアを「アクティブプラン」として各々が積極的に提案しました。

これからの薬剤師は、医療における役割が拡大すると同時に責任を負いながら努力していかなければなりません。今回一緒に議論した皆さんが「今度は私達ももっと活躍して、貢献していける場を拡げていこう」という熱い思いと意気込みをもっておられ、非常に心強い気持ちになりました。

私はこのワークショップに参加して、薬剤師としてのやりがいや伸び代が大きくなって

いることに対し、まず感謝したいと思いました。後輩達にも良いバトンを渡せるよう、周囲の仲間とさらにテーマを見つけて議論していきたいと思います。

グループ II B 氏名 公文 育実

この全国薬学生ワークショップでは大変勉強になり、また、楽しい時間を過ごさせていただきました。他大学の薬学生と交流する機会がなかなかありませんでしたので、各大学の違いを知ることができました。最初のアイスブレイクでは、短時間でしたが個人のことを知ることができ、すぐに仲良くなることができたととてもよかったです。

ディスカッションに関しましては、現在の医療に対しての考え方について他者の考えを知るだけでなく、自分自身でも改めて考えることができました。また、私たちのグループでは、就職しようとする職種が薬局薬剤師、病院薬剤師、企業のMR、研修生、公務員とさまざまであったため、各職種によっても考えが異なっておりました。そのため、問題点に対する対策では、個々の職種からの対策について話を聞くことができたため、とても面白いディスカッションとなりました。

このワークショップで得たことを薬剤師になり仕事をしていても忘れずに心に深くとどめておこうと思います。

グループ II B 氏名 小浦 良祐

今回のワークショップを通して、多くの方々と討論をする中で自身の考え方、視野を広げることが出来ました。大学も就職先も異なる学生同士の討論は、常に新しい発見がありとても刺激的なものでした。タスクフォースや先輩の方々から学ぶことも多くありましたが、こうして同期の学生から何かを学び取ることができる機会というのはとても貴重であり、互いにモチベーションを高めていくことが出来たと思います。また、現在の医療の問題点の抽出、それらの解決策についての討議においては、薬剤師の資格を取ったのちに私たちがどのように行動していくべきか、何が求められているのかについて強く意識して考えることが出来ました。自分たちが行動を起こし、これからの医療を変えていこうとする、その強い思いを共有できたことは今回のワークショップで一番の収穫でした。

全国学生ワークショップは普段学ぶことが出来ない多くのことを学べる機会であり、自己成長の場であると感じたのもっと回数を増やしより多くの学生にこの空気を感じてほしいと思いました。

グループ II B 氏名 清水 雄太

全国の薬学部の代表者が集まるワークショップに参加できたこと、有意義な2日間を過ごせたことに感謝しています。

まず、私は率直な感想として皆さん将来に対し高い志を持っていることに驚きました。高い志を持った学生同士が集まっていたので、SGDの課題に対しても積極的に意見交換することができたと思います。その結果、グループメンバーの思考を共有化することができ、より良いプロダクトが完成したと思います。

また、私のSGDメンバーは同じ薬学部でも様々な進路に進む学生が多く、1つの課題を色々な角度から焦点を当てることにより、1人で試行錯誤しても思いつかない様な意見が出てきました。よって、自分の視野の狭さや思考が偏っていることに気付くことができ、今回のワークショップで私は普段の大学生活では得られないものが得ることができました。

最後に、同期の薬学部として横の繋がりを得られたことは自分自身にとって最も大きなことだと思いました。

今回のワークショップで出会った学生の方、タスクフォース見習いの卒業生の方、タスクフォースの先生方の皆様方に深く感謝申し上げます。

グループ II B 氏名 森内 将貴

今回は日本薬学会主催のワークショップに参加させていただきました。

今回のワークショップを通して全国の薬学部生が感じている「医療現場における薬剤師の問題点」は共通しているという事に強く驚きを覚えました。先ほども述べましたように他大学では多くのカリキュラムによってそれぞれが特色のある教育プログラムを実施しています。にもかかわらず、臨床実習で感じる薬剤師という職の可能性や期待、不憫さ等は共通しているという事が驚きでした。この点に関しては薬学部生からみたらやはり一番大きな問題がそこに存在するという事なのだと思います。理想的な薬剤師になるにはまだまだ道が険しいかもしれませんが、一人一人が意識を保ち続けることによって薬剤師の職能を向上させ、最終的には患者さんや日本という国を救えるようになれば良いなと考えさせられました。

研究室では将来の研究や夢について熱く語るのですが、外部の方々と熱い話をする機会はありませんでした。外の学生とふれあって、将来薬剤師になる人、企業に行く人、行政に行く人とこれからの医療について熱く語る場に参加させていただいたことで今後の研究室や、その先でも、世のため人のために仕事がしたいという思いを強くする事ができました。

グループ IIB 氏名 柳澤 真央

全国各地の薬学生と交流する貴重な機会に恵まれ、大変有意義な2日間でした。

受けてきた教育内容、進路も多岐に渡る薬学生との意見交換から、今後の薬剤師の在り方について新たな視点を得ることができたことは大きな収穫でした。

今回のワークショップでは薬剤師＝「医療従事者としての薬剤師」という観点からの議論が中心であり、研究開発や行政における役割について語られる機会が少ない印象を受けました。

薬剤師は医療現場のみならず、製薬企業、アカデミア、行政など幅広い分野で活躍していますが、日々の業務のなかで互いの立場や考え方について理解することは難しいと思います。今回のような「横のつながり」を持つことは異なる職種に対する想像力を働かせるうえで重要であり、薬剤師全体としての社会貢献に資するものと感じました。

卒業後もこのようなつながりを持ち続け、業務経験も踏まえたより深い議論を行い、今後の薬学教育に還元したいと思います。

最後に、2日間ご指導戴いた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

グループ IIC 氏名 赤澤 実樹

日本薬学会第4回全国学生ワークショップということで、全国の薬学部6年生の方々と様々な体験を通して交流を深め、貴重な経験をさせていただきました。私の大学では他の大学と交流する機会がほとんどないため、この貴重な経験から、少しでも大学の友人や後輩へフィードバックできればという思いで参加させていただきました。

アイスブレイクの他己紹介でチームのメンバーを知り、それからのグループワークでさらにお互いに考えや意見をぶつけ合い討論を行っていく中で、全国各地にすばらしい考えと人柄を持った薬学生が多くいることに驚きました。意見は違えど、個性的ですばらしい意見がぶつかれば、新しい別のすばらしい意見が生まれることが多々ありました。初日の昼食から交流が始まり、2日目のワークショップ閉会のそのときまで、ずっと刺激を受けることができました。

この度のワークショップでは、全国各地にすばらしい仲間がいることに対する安心と、また自分ももっと精進しなければと奮い立たされる思いを感じました。最後になりましたが、このような機会を与えてくださり、ワークショップ開催にご尽力頂いた方々に心より感謝いたします。

グループ IIC 氏名 稲嶺 盛佳

私は第4回全国学生ワークショップに参加し、多くの志の高い学生と出会う機会を頂きました。

ワークショップでは「私たちが築く新しい医療と社会：将来の思いを共有しよう」という将来の医療における薬剤師のあり方について議論ができました。このことは、求められる薬剤師像が見えていない私にとってとても良い刺激となりました。

また議論することで、各大学の薬学教育の違いを感じることができました。この議論の中では薬学教育をさらに充実させる必要があるという意見があり、私自身もそのように考えています。今後、このワークショップで得た各大学の良い点を本学にも取り入れ、本学に良い変化をもたらすきっかけになるような働きかけをしたいと考えています。

ワークショップに参加したことで多くの人と出会い、多くの刺激を得ることができました。このような機会を私たちだけでなく、もっと多くの人に経験していただきたいと感じました。最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝いたします。

グループ IIC 氏名 奥村 理紗

各班の特色ある発表や熱くぶつかり合う質疑応答に圧倒され、志の高い参加者の方々の夢や思いに感動し、私にとってこのワークショップへの参加は本当に素晴らしい経験になりました。全国の学生の方々と交流でき、大学生最後の夏休みに良い思い出ができました。この出会いを大切にしたいです。印象記ということでII班の方々について私が受けた印象を記します。秋本さん：どんな発表に対しても質問していて鋭いです 川原さん：茶道の授業に驚きました 木原さん：威勢がありプレゼンが上手でした 佐藤さん：相手を尊重する質問の仕方が素敵でした 平野さん：自分の意思をしっかりと発言していてかっこよかったです 大野さん：可愛くて親近感があり話しやすかったです 小田切さん：顔立ちが良く話に説得力がありました 北野さん：明るくて積極的で誰とでも仲良くなれます 公文さん：マイペース感が好きでした 小浦さん：向上心が強く私のモチベーションも上がりました 清水さん：タコ紹介し合いました 森内さん：雰囲気柔らかくて癒されました 柳澤さん：将来大物になりそうです IIC班の皆さん：みんなそれぞれ個性があっただけでも大石さんは逸材でした、ディスカッションも盛り上がりとても楽しいチームでした

最後に、このような貴重な場を設けてくださった関係者の皆様、ワークショップで出会えた参加者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

グループ IIC 氏名 岡 慧

主催して下さいました日本薬学会、学生 WS 関係者各位に感謝致します。全体を通して私が感じた事としましては「地域差」という言葉にまとまりました。全国の学生それぞれに思うことがあり、まさに十人十色であったと思います。私に見えない視点からの話や考えが沢山あり、これは環境の違いから生まれるものなのかと、正直羨ましくなる時もありました。

WS ではこれからの新しい医療と社会の問題により焦点を当てたものでしたが、その中で具体的な討論が生まれた時に一つ感じた事がありました。医療と社会の問題に教育環境の違いは関係ない。風土や生活習慣が各地、各人それぞれ違う日本において、果たして教育環境や経験でこれからの社会貢献度が違うのか。それよりも、例えば出身地である青森は何に悩んでいるのか。例えば認知症患者は何に悩んでいるのか。それぞれの物語に目を向けるのが我々の社会的責任なのだと考えるようになりました。また、教育環境は私たちが向上させるものではないか。そのような地域差を大事な責務として捉えるようにもなりました。

地域医療という言葉の重さと明確さに改めて気づいたWSとなりました。医療人としての責任を背負う時、これからは良い意味で地域差を意識し具体的な行動を考えたいと思っています。

グループ IIC 氏名 大石 信雄

薬学を修めた者に求められる資質とは何であろうか。多くの学生は臨床すなわち薬剤師として求められることをより教育の場に盛り込んでいくべきという意見を発した。この流れを止めることは社会の薬剤師に対する要求に反することになるが、私は敢えて待ったをかけるべきであると考え。大学の使命は、「研究」「教育」「社会貢献」の3本柱で言い表されることが多い。現在のカリキュラムでは「研究」は4-6年次に押し込められ、臨床実習とバッティングする。結果、学生は実習あるいはそれに係る勉強をいわば免罪符として研究活動を放棄することができる。研究活動を通して知名度・教育レベルを確保する大学教授としては当然6年制の学生を研究室に入れるのを敬遠する。結果、研究能力を持った6年制を輩出することが困難になると考えられる。研究したければ博士に行けと言うかもしれないが、学士レベルで研究実績のないものに進学資格はないも同然である。私は薬剤師資格を持った研究者を確保するためには研究と実習のバランス配分を学校毎に決められるようにすべきであると強く主張する。そうでなければ、薬学部・薬科大学が「専門学校」に成り下がるまでである。

グループ IIC 氏名 高橋 希望

2日間に渡る全国の薬学生との交流は本当に有意義で、貴重な経験となりました。学生生活が残りわずかとなり、実務実習や就職活動を終えて、いよいよ社会に出ていくのだという自覚を少しずつ持ち始めたこの時期に、未来だけでなく、過去・現在の自分と改めて向き合い、さらに他大学の学生から多くの刺激を受けたことで、薬学生として一回りも二回りも大きく成長できたのではないかと思います。

話し合ったテーマは「現在の医療の問題点」と非常に難しい内容でしたが、班内での話し合いや全体発表を聞いて、薬剤師として働き始めてからだけでなく、今の自分にもできること、すべきことがたくさんあるのだと感じました。卒論や国家試験の勉強に追われる毎日ではありますが、WSに参加したことで、全国にこんなにたくさんもの意識の高い仲間がいるのだと感じ、私自身も誰かの心に残るような社会に貢献できる薬剤師になりたいと強く思いました。そのためにも残り少ない学生生活を日々大切に過ごそうと思います。今回、このような機会を設けて頂いた関係者の皆様に深く感謝いたします。

グループ IIC 氏名 吉川 恵理

様々な考えに出会え、とても刺激を受けた二日間でした。第1部では他の方々がどのような背景を持っていて、どのような環境に身を置いているのか把握でき、私との考えの違い、私の周りにはいない考えの持ち主、私が通っている大学とは違う環境があることなど、多くの刺激を受けることができました。第2部からの「私たちが築く新しい医療と社会」では自分一人では気づくことのできない意見にたくさん出会いました。各グループで問題点として出されるものは似ていても、なにが重要になるのかということが少しずつ違っているなど見る角度によって変わることを体験でき、大変刺激を受けました。今回は薬剤師として働いて自分たちが関わっていける範囲での話し合いが多かったのですが、また別の機会に企業の中から、仕組みの面からなど、なかなか個人では変えていけないところも話すことができたらと思います。教育講演や情報交換会などまだまだ書きたいことはいっぱいあるのですが、最後にとっても印象に残ったことを。「自信を持つための知識のつけ方はもうみんなわかっている。後は一步を踏み出す勇気だけ」皆さん、二日間本当にありがとうございました。

グループ IIIA 氏名 薄井 伸徹

この2日間を通して各々が感じてきた問題点と、それを解決するための手段を共有できた。一人では具体的な解決策や本質が見えていなかった問題も、様々なベクトルからの意見を聴くことで見えてくる部分が多々ある。同じ大学内では挙げられいような意見がいくつも挙がり、このWSに参加することで多くの素晴らしい考えを吸収することができた

感じる。

また、後にも先にも「プロ」という言葉を意識させられる WS であつたと思う。地域差という言葉で片付けてしまえばそれまでだが、実習を通して臨床の現場は学生として思い描く医療の本質とは大きくかけ離れていた。確かに社会に出れば行動一つ一つに責任が付いて歩き、できる事に限りはある。しかし、そこにプロ意識を持って取り組む人間が何人いたのだろうか。この WS を通じて感じたこと、学んだことを大学そして卒業後に広め、問題を共有することがこれからの医療改革に繋がっていく。そのためにも、このような全国規模の意見交換の場の重要性が感じられた。

グループ IIIA 氏名 川崎 桂輔

今回の 2 日間にわたるワークショップには多くの大学から学生が集まっており、皆が自分の独自の意見を持っており、議論の中では次々と意見が出てきましたので話をまとめることに終始苦労しました。

ワークショップを通して、意見交換の場を多く設けていただき、それぞれの大学のこと、実務実習での経験、これからどう働いていくかなど、考えや思いを共有することができました。今後大学を卒業し、皆が違ったステージで活躍していくことになると思いますが、これだけ違う考えを持った人たちがいる、ということをお忘れずに情報収集や意見交換の場を大切にし、自分のいる場所だけではなく様々な意見を取り入れることの大切さを学ぶことができました。

私たちの班はSGDにおいて、どうしたら薬剤師のスキルアップができるのかということについて話し合いを深めておりましたが、最終的には具体的な対応策を出すことはできませんでした。このことについては今後、意見の交換の場を最大限活用し、現場で実際に問題と向き合いながら考えていきたいと思っています。

最後になりますが、貴重なコミュニケーションの場を設けて下さった方々に心より御礼申し上げます。

グループ IIIA 氏名 北川奈美

私は、大学の特別研究配属で「6年制薬学教育」について臨床研究を行っており、より自身の研究を深めるために、大学を代表してこのワークショップに参加に至りました。全国から集まった薬学生との交流を通じて、各大学の特色や教育内容の相違、地域医療の現状等多くのことが知ることが出来ました。

種々のグループワークの中で、私は医療連携に大学が関与していく重要性について発表したことが最も印象的でした。さらに、薬学教育を充実させるために、他の医療学部や他大学との交流の機会を設けることが必要であるという意見を、参加されていた大学教員や

行政の方々に直接訴えかけることが出来たことは、このワークショップでしかできないことであると思いました。

このワークショップに参加した、私たち「薬学教育 6 年制第 4 期生」は、来年度から病院・薬局・行政・製薬企業等、様々な分野で働くことになります。そして、皆が将来も臨床研究を続けていき、医療、薬学教育をより良いものにしていこうという気持ちに満ち溢れており、今後の日本の医療を先導していくと考えられます。こんな素晴らしい仲間と出会えたことは、私にとって本当に嬉しいことでもあります。この二日間だけではなく、今後もここで出会った仲間と協力して医療貢献していきたいと思えます。

グループ IIIA 氏名 葛 祐妃

この度は第 4 回全国学生ワークショップ(WS)に参加させていただきありがとうございます。全国から意識の高い薬学生が集まり今後の医療や薬学・薬剤師のあり方について熱い議論を交わしたり、それぞれの理想を語り合ったりと、大変有意義な経験となりました。私は薬剤師を志した頃より、実地臨床の現場にて薬剤師として医療に貢献する事を目指してきましたが、薬学部を卒業した後に私たちが活躍できるフィールドはもっと広いということを感じると同時に、今回出会った仲間達とならば、必ずより良い医療を構築していくことができるだろうと確信いたしました。

木下先生の御講演は、WS の中で最も印象に残ったことのひとつです。医療人としてのプロフェッショナリズムはもちろんのこと、医者である先生から見た薬剤師像と薬剤師に対する期待を伺えた事は、今後臨床現場に出てチームの 1 員として医療に貢献するにあたり真に重要で貴重なことであったと思えます。

はじめにこの WS のお話を頂いた時は、正直泊まり込みで SGD をするという事にあまり乗り気ではありませんでした。しかし私の予想は大きく裏切られました。実に内容の濃い議論をすることができ、自分の将来についても改めて考え直す機会となり、薬学生として過ごした 6 年間の中でも特に楽しく自分の視野を大きく広げる事が出来た 2 日間でした。

グループ IIIA 氏名 土田 隼之祐

とても濃密な 2 日間でした。

今まで学会等に参加することはありましたが、同じ世代で全国の薬学生とコミュニケーションをとることは初めてだったので、緊張と期待を膨らませながら会場に向かいました。

アイスブレイクから始まり、World Café では今までの学生生活を振り返ると共に、様々な将来を思い描く学生の話聞くことで、とても良い刺激を受けることができました。告別講演は、医療人のプロフェッショナリズムという、学内では経験できない貴重なお話を聞き、自分の将来の目標を改めて見つめ直すとても良い機会となりました。今回のワーク

ショップで多大な時間の費やして話し合われた「現在の医療の問題点と改善策」というテーマは 6 年制薬学部を卒業する薬剤師にとって取り組むべき最大の議題であり、それを解決に導くために広い視野と考え方を持った心強い仲間がいることがわかりました。

1泊2日という短い時間でしたが、第4回全国学生WSに参加できたことをとても嬉しく思います。今回のWSを通じて出会えた仲間がそれぞれのフィールドで活躍し、再び熱い議論を交わせることを願っております。

最後になりますが、WS開催にご尽力いただいた方々に深く御礼申し上げます。

グループ IIIA 氏名 道面 栄美

今回のワークショップに参加させていただき、意識の高い全国各地の薬学生と討論することができ、大変充実した2日間を過ごすことができました。各セッションでテーマごとに班員全員で熱く語り合い、時間内にプロダクトを作成し、発表まで完成させたという経験は、達成感を感じるとともに、チームワークの大切さを実感する機会となりました。

この2日間で特に印象に残っていることは自分の将来について、または、薬剤師の将来について、各学生がしっかりと自分の考えを持ち続けているということです。具体的にいうと、私が今まで考えていた最大目標は病院薬剤師として患者さんに寄り添っていくことでした。しかし、他大学の学生は、病院薬剤師として患者さんの利益を最優先することはもちろん、データ解析などを通して、得られた情報をメディアなどによって発信し、薬剤師という存在を広く伝えたいといった考えも聞くことができました。私には無かった考えを同じ薬学生から聞くことで、さらに、上を目指して進んでいこうと思いました。

卒業後に、自分自身に何が出来て、何を必要とされているのか、見極めつつ、知識や技能の向上に努めていきたいと強く思いました。

グループ IIIA 氏名 善利 佑記

『1泊2日、議論と交流の時間』—このワークショップ（以下、WS）を端的に表した言葉である。WSへお誘い頂いた際、私には荷が重過ぎると感じていたが、いざ始まってみると自分でも驚くほど初対面の”仲間”と打ち解けて議論を行うことができ、有意義で充実した2日間を過ごせた。

ディスカッションやグループワークも然ることながら、教育講演も大変勉強になった。ナラティブの重要性を再認識すると共に、常々気になっていた医療における薬剤師の異質性に納得がいった。WS期間中よく耳にした「コミュニケーション能力不足」にも、通ずるものがあると考えた。

日本社会の将来に対する見通しは決して明るいものではなく、医療ひいては薬学に関しても同様であろう。事実、医療の問題点というテーマでは多種多様な意見が挙がり、その

対応策に関しては皆頭を悩ませていた。しかしこのWSによって少なくとも私は力付けられた。志を同じくする者が集い、考えや思いを交わし共有することで、不安は未来への原動力になりうると実感した。

最後に、このように刺激的な機会を与えて下さった皆様、時間と思いを共有して下さった皆様に心より御礼申し上げます。

グループ III B 氏名 稲垣 里紗

今回のワークショップに参加させていただき、とても中身の濃い時間を過ごすことができました。私自身、他大学の学生と交流する機会は今までにほとんどありませんでしたが、今回初めてこのような機会に恵まれ、同じ学年の薬学生が非常に高い意識を持って薬学の道を歩んでいることを知り、とても良い刺激を受けました。将来の夢、現在の医療に対する問題点など、どの意見も私にとっては新鮮なものばかりで、これまでの自分の視野がとても狭かったことを実感しました。

グループワークでも各学生からの意見が尽きることがなく、議論が白熱するあまり作業時間をオーバーしそうになることが多々ありました。時間が足りないことをこんなにも悔しく思ったのは初めてでした。

このワークショップで多くの仲間に出会えたことに感謝します。これから働くフィールドは違っても、同じ医療の世界に熱い志を持った仲間がいることを心強く感じるとともに、私も彼らに負けないうらい強い意志と行動力をもってこれからの医療に挑んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えてくださいました諸先生方に、深く御礼申し上げます。

グループ III B 氏名 猪股浩介

今回ワークショップに参加させていただき、参加者の皆が大学でのカリキュラムであったり、卒業後の薬剤師のあり方について様々な考えを各々に抱いているということが率直に感じ取ることができました。グループワークを通して、意見の中に自分の夢を加えて、更にそれを実現するために今何をすればよいのか熱く語るメンバーにとっても強い印象を受けました。また、それが受身的に制度が変わるのを待つというようなものだけではなく、今の自分たちに何ができるのか、このままこの経験を終わらせないためには帰って何をしたら良いのだろうか、皆で考えることができました。このワークショップを通じて、薬剤師がただ調剤をすれば良い、資格を取ってしまえば後は安泰というような時代は終わりつつあって、本気で自分の薬剤師としての存在に向き合っていかなければ、薬剤師として生きていけない時代がやってくるのだということをヒシヒシと感じました。この経験で得た

ものをできるだけ広め、また自分のこれからは活かしたいと思います。2日間と短い期間でしたが、充実した時間を過ごさせていただき本当に有難うございました。

グループ III B 氏名 今井 智江利

今回、このワークショップ（WS）に参加させていただいたことは、他大学の人とどころか学内でさえ薬学生としての将来への思いを共有する機会のなかった私にとって、大変貴重な経験となり、大きく視野が広がったように思います。グループ毎に議論していく中で、皆がそれぞれのテーマに対して、自分の意見や考え、思いをしっかりと持っており、それを積極的に発信していく姿に、大変感化されました。

このWSを通して、私が最も大切だと感じたことは「考えや思いを共有すること」です。自分の思いを発信することや他の人の思いを聴くことで、その実現へのモチベーションアップにもつながり、自分の目指すところが正しいのか、もっと考えるべきことはないかといった視野を広げることにもつながると思います。また、薬学教育が4年制から6年制へと移行し、薬剤師や薬学出身者が期待される中で、それぞれの意見や考えを共有することは、意識の統一や薬剤師の職能団体としての前進にもつながると思います。私自身も自分の思いや考えを発信することや共有していくことを大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回のWSに関わり、私に貴重な経験をさせてくださった、全ての方々に感謝いたします。

グループ III B 氏名 岡島 隆博

この度は、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。ワークショップを通じて様々な大学の方々と討論し今まで自分になかった考えに触れることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。ワークショップでは、現在の医療の問題点は何か、またこれから自分たちが何をしなければいけないのか確認することが出来ました。私たちは実務実習を行い、短い時間ながらも現場を体験しています。このため、医療の問題点においてより具体的な内容がでたと思います。例えば、現場で働いている医療従事者の意識に格差があるなどです。この問題点について討論していくうちに、自分たちが今からできることが想像以上にあり、今後のモチベーションにつながりました。残りの大学生活そして社会に出てからも、高い意識をもって活動していきたいと感じました。制度や法律を変えるには、多くの時間や労力がかかります。しかし、皆で問題点や思いを共有しそれぞれが行動していくことで、問題解決に近づいていくと強く思いました。

グループ III B 氏名 河本 純平

私はこの WS 参加の話先生から聞いたとき、初めは別の用事があるので断ろうと思っていました。ただ、少し考えてみて、私の性格や考えを知っている先生方が私を候補に挙げたということは、自分にとってプラスになる、もしくは自分の能力が少しは使えるのではないかと考え、せっかくなので参加させて頂きました。

結論から言うと、WS に参加したことによって素晴らしい経験と、仲間を得ることが出来ました。そう思えるほどに、濃密な 1 泊 2 日でした。

周りは知らない人だらけで、噂によると各大学がエース級の生徒を投入してくると聞いていたので、自分がその人たちと討論することが出来るのだろうか心配でした。その心配は杞憂で、みんな話やすく、ただし自分の考えや芯をしっかり持った人たちばかりでした。そんな人たちのおかげで WC のテーブルマスターもうまくまわせたし、SGD でも熱い討論を交わすことが出来ました。

はじめはこの WS のテーマは自分が語るには大きすぎるなと思いました。ところが WC で自分の過去・現在・未来について語っていると、意外と話せるテーマなのかと思うようになりました。

今回 WS を開催して下さった先生方、本当にありがとうございました。

グループ III B 氏名 花岡 彩奈

日本薬学会第 4 回全国学生ワークショップに参加させていただき、全国の薬学部生と交流をすることができ、とても刺激を受けた 2 日間でした。

「私たちが築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」というテーマのもと、様々な議論を交わしました。参加した学生の皆さんの薬剤師としての将来像は多岐に渡り、同じ職種を目指していても、それぞれの夢があり、色々な方向性がありました。また、皆さんの意識の高さに感銘を受けると同時に、自分の意識の低さを痛感しました。SGD で私達の班は「薬剤師のプロ意識の低さ」を最優先課題として議論しました。実務実習を通じ、医師や看護師に比べて薬剤師はまだ患者さんに対して積極的になれていないと改めて感じ、今回の議論を通して意識を高くもって働く事が必要であると思いました。その上で、木下先生の「医療人のプロフェッショナルリズムとは」公演を聞きました事は、大変貴重な経験となり、今後のモチベーションにつながりました。

最後に、このような貴重な機会を与えていただいた関係者の皆様、2 日間共に過ごし議論を交わした仲間たちに深く感謝いたします。

グループ III B 氏名 濱崎 久司

今回、ワークショップへの参加を大学から打診されたとき、こんなチャンスは絶対逃してはいけないと思い、参加させて頂きました。長崎という西の端にいてもあり、普段は九州内の薬学生としか交流する機会が得られませんでした。全国の薬学生と関われるということで、九州をアピールするつもりで意気込んで行きました。

班員にも恵まれ、SGD では薬学教育に関して深い議論ができたと感じ、非常に満足しています。主題である「医療の問題点」からは離れてしまったかもしれませんが、僕自身が興味のある内容について熱く議論できたことは、将来の糧になると思います。また、何よりも、これから共に社会に出て、様々な分野で活躍していくであろう仲間たちとの最高の出会いがありました。6年間の教育を受けてきたとはいえ、まだまだ学生である以上、現時点での議論には限界があります。今回のWSだけで終わらせるのではなく、これから先の薬学に関わる人生においても、今回出会った仲間たちと度々議論を交わしながら、お互いに成長できるような関係を築いていきたいと思っています。

グループ III B 氏名 渡部 和幸

今回「私たちが築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」という大きなテーマのもと、全国の薬学生と議論を交わす事ができたことは、自分が薬剤師として何をすべきかが明確になると共に、志気の向上にもつながりました。

今回特に感じたのは、山のようにある現在の医療における問題に対応するため、今まさに薬剤師のあり方が変わろうとしているという事でした。社会から薬剤師に求められる地域医療などにおけるニーズも高くなり、自分たちが医療の現場に出た際には、ひとりひとりが今回挙げられた問題に向き合い、医療の質の向上を目指して動いていかなければなりません。そのために今回話し合われた意見をより多くの人と共有することで、同じ志のもとに皆で動いていかなければならないと感じました。医療の中心は患者さまだということを忘れずに、医療費やセルフメディケーションなどにおける問題をこれからも考えていこうと思います。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった関係者の皆様と参加された学生の皆様に心から感謝致します。

グループ III C 氏名 荒井 裕貴

今回のワークショップは、普段は他大学との交流の場が少ないということもあり、自分にとっては全国の学生と交流できる非常に貴重な機会となりました。他大学の良いところや個人の想いなどを共有でき、自分の視野も大きく広がったように思います。計2日間の討議では、医療に対する自分の姿勢を再確認することができた一方で、自分の至らない部

分、課題も浮き彫りになりました。普段の授業でもこのような作業を行う機会は多々ありましたが、今回の討議はより深い、内容の濃い議論を交わすことができたように思います。皆が様々な意見を持つ中で、折り合いをつけながらも力を合わせて1つのものを作り上げていくことに、大きな達成感を味わう事ができました。また、教育講演の内容も興味深く、これから薬剤師として社会に出ていく上での心構えを学ぶことができました。残り少ない学生生活、そして薬剤師として社会に出た後も、今回の経験を生かしていきたいと思いません。

グループ III C 氏名 井伊 明大

第一部と三部では、薬剤師として働いている自分の将来像について語り合った。他の人たちが薬剤師として明確な目標を持っており、努力していることが分かった。自分は、将来の姿がしっかりとイメージできずにいたが、他の人たちの意見を聞いて自分の将来の方向が見えてきた。

第二部では、現在の医療の問題点とその解決方法について討論した。それぞれのチームで、薬剤師の地位があまり高くないことや活躍の場が少ないことが挙げられることが多かった。この問題については、アメリカなどの外国と日本の薬剤師の職能や地位の差について聞かされていたので、自分も解決していくべき問題だと思っていた。解決法として、処方提案などの薬剤師としての能力を生かせることを積極的に行っていくことなどが挙げられた。また、薬剤師としての専門領域以外にも、画像診断や検査値などについても積極的に勉強することも解決につながっていくと思った。

今回、日本薬剤師会全国学生ワークショップに参加して、他の大学の薬学生の考えや意見を聞くことができた。将来像などを考え直す良い機会となったと思う。

グループ III C 氏名 池本 舞

今回は、日本薬学会第4回全国学生ワークショップに参加するという貴重な機会を与えていただき、非常に感謝しています。

私は今まであまりこのような場所に積極的に参加することはしてこなかったのですが、大学や地域、また、今までの人生経験の異なる人々と関わり、討論することで、多くの刺激をもらうことができました。私の大学は単科大学であり、他職種の人々と関わる時間は少ない方だと半ばあきらめていたところがありました。しかし、自分が積極的に外に出て、多くの人と関わる機会を得ようとしてこなかったことに気づき、自分の考えを見直す機会を得ることができました。また、学生同士の関わりだけでなく、タスクフォースの方々と接することで、実際の現場の様子や働いてから感じたこと等、多くの貴重な意見を非常に和やかな雰囲気でも聞かせていただきました。

我々の役割として、今回のワークショップで学んだことを還元していくということが必要であると思います。まだまだ、私のように、積極的に活動していない学生も多いと思うので、個人個人の薬学生が向上心を持って勉学に励んでいけるよう、多くの学生に広めていきたいと思います

最後に、このような機会を与えてくださった皆様に、厚く御礼申し上げます。

グループ III C 氏名 伊藤 大祐

日本薬学会第4回全国学生ワークショップに参加させていただきありがとうございました。全国の学生と交流する機会は、今回が初めてでしたが、各大学でやっている内容や、考え方の違いがあるのかと驚き、また広い視野が手に入ったのではないかなと思いました。今回のテーマである「私たちが築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」の中で、現在の医療の問題とその解決方法を話し合ってきましたが、まだまだ薬剤師として医療に貢献できるという熱い思いを全員が持っていることが刺激となりました。また、この思いを捨てることなくそのまま行動に移していかなければならないと強く思いました。そして、他の医療従事者という言い合いができる薬剤師というものがどんどん必要で、そのために活動していかななくてはいけないとも考えました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった先生方に深く感謝いたします。

グループ III C 氏名 井上 可奈子

今回2日間のワークショップに参加させていただき、全国の薬学生と意見交換ができたことは、私にとって大きな刺激になりました。

初日の開会式で、このワークショップでは「自分が大学の代表として参加している」という意識ではなく「ありのまま」のあなたで参加してくださいという旨のお話があった通り、私も含め参加者の皆さんの思いを共有させていただけたように思います。

何よりも一番感じたのは、全国にこんなにも熱意をもった学生、先輩、先生方がいらっしゃるという事です。

他大学、特に他県の大学の学生と話す機会はほとんどなく、どんな活動をしているのかもあまり知りませんでした。そしてSGDなどを通して討議していくうちに、同じ思いをもった仲間が全国にいるという事に気づく事もできました。卒業して進む道は違っても、今回感じた事はこれからの励みになるはずです。

また「現在の医療の問題点」について、興味深い意見が多数出ており皆さんのパワーに感動しました。今後、また新しい疑問や課題が出てきたときは、今回のように意見交換していきたいです。

最後になりましたが、このような素晴らしい場に参加させていただき、ありがとうございました。

グループ III C 氏名 大貫 真紀子

様々な大学・地域ではあるけれども、“薬剤師になる”という明確な目標を持ったメンバーが集まり、私たちの未来、後輩の未来を自分たちで作り出していくワークショップとなりました。本当に多くの方々が将来の薬剤師として高い意識を持っていることに気づき、私自身の意識も高めることが出来ました。

6年生になり、私は就職先を4年生大学でもなることのできるMRに決めました。それは、6年間学んできたからこそ「薬物治療」のスペシャリストとして、医療従事者のパートナーとなり、社会に貢献していけると考えたからです。

しかし、今回の話し合いではほとんどMRの話は出てこず、まだまだ医療従事者の一員としては認められていないのが現状であると感じました。私は真に医療従事者の一員になるためにも、生涯学習を行い、自己研磨し続けていきたいと考えられるようになりました。こうしたワークショップで真剣に話し合いが行えるからこそ、様々な考え方を吸収することができ、また新しい考えを生み出すことが出来るのだと強く感じました。自身の成長につながるとても有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。

グループ III C 氏名 小野 竜也

今回、第4回全国学生ワークショップに参加させていただきました。このような全国の薬学生が集まってワークショップを行うのは初めての経験だったので、とても不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、World Caféなどのワークショップを重ねるごとに他の薬学生との仲も深めることができました。

ワークショップに参加して驚いたのは、他の薬学生の意識の高さと自分の将来像を明確に持っているということでした。また、意見交換の場でも私では考えられないような意見もあり、このような考えを持っている学生がいることを知ることができたのは私にとって大きな収穫になったと確信しています。

今までの学生生活を振り返るのはもちろんですが、今回のワークショップを通して学んできたことを大学の仲間に共有できればと思います。これから薬剤師として社会に出ていく中で、広い視野を持ち、患者さん一人一人に寄り添えるような薬剤師となれるように日々精進していきたいと思っています。

最後に、このような貴重な場を設けてくださった関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

卒業生タスク

印象記



グループ IA 氏名 東本 祐佳

今回私は先輩方、同期と一緒にタスクフォース見習いとしてワークショップに参加させていただきました。まずアイスブレイクから、4期生の方たちの場への溶け込みの速さに驚きました。全員がユーモアを交えて他己紹介を行ったり自分の意見を発表したりしていて、グループごと、全体での発表後には、私たち卒業生が口を挟むまでもなく議論が白熱しているのを見て、コミュニケーション力の高さを感じました。

タスクフォース見習いとして4期生の方々の議論を、自分たちが1年前に思っていたことと同様の意見には共感し、IA班のメンバーならではの視点の意見には驚きながら聞いていました。タスクフォースの先生方から、議論の進行状況を見ながら細かくアドバイスをいただき、参加者の様子をしっかりと観察し、時間配分ひとつアドバイスするにも、タイミングや言い回しに配慮しなければならないことを教えていただきました。1日目の夜にはフィードバックの時間をいただき、1日目に感じたこと、2日目にどうしたいか、私たちタスクフォース見習いが感じたそのままをじっくり聞いてくださり、アドバイスをいただきました。先生方が、全体としてこのような空気づくりをしてくださっているから、ワークショップでは自分の意見を安心して話せたんだな、と1年前を思い返し、タスクフォースというのは単なる雑用係や進行係ではないのだとあらためて感じました。

今回ワークショップで再会した同期は、個人的には1年前のワークショップでは別の班だった人が多く、名前と顔が一致するかどうかとも怪しい状態でした。でも、4期生の方々の議論を聞き、タスクフォース見習いとして同じ難しさを体感し、1期生、2期生の先輩方の行動力を目の当たりにして、これから私たちも、未来の薬学を一緒に担っていく仲間だという意識を共有できたのは、すごく大きな収穫でした。来年はもっとワークショップに還元できるものが増えるよう、1年間しっかり仕事に励みますので、これからもよろしくをお願いします。

グループ IA 氏名 山口 奈美子

学生として参加させていただいたWSから早3年。タスクフォース見習いとして学生さんの議論を外から見る立場となり、当時とは違った思いや考えを抱いた2日間だった。まず、学生さんの薬学教育への関心が高いことにとっても驚いた。自分たちが6年間を通して受けた教育の良かった点と悪かった点をきちんと整理し、改善すべき事項をまとめて発表する姿はとても凛々しかった。また、薬剤師の在り方や地位の理想と現実を議論し、卒業後にその溝をどのように埋めていくのかを考える学生さんたちを見ていて、非常に頼もしく感じた。

さらに、本WSをサポートしてくださるタスクフォースの先生方からのご指導を通じて、6年制薬学部がこれほどにも温かく学生思いの先生方に支えられていることを再認識した。私は博士課程で分子生物学の基礎研究に携わっているため、薬学との社会的な接点が少なく、様々なフィールドで活躍する同期生を見ていてもどかしい思いをすることが多い。しかし今回、PhDとしての薬学への貢献を期待してくださる先生方や卒業生と多く出会え、大

変に励みをいただいた。WS で得た経験と想いを忘れず、今後も医療に貢献できる研究成果を挙げられるよう努めていきたい。

グループ IA 氏名 山本 天心

以下は、タスクフォース (TF) として参加させていただいた私の雑感です。

①議論に参加できないもどかしさ

私自身も過去に同様の議論を体験していることから、目前にて展開されている議論の方向性 (らしきもの) については一定程度は把握しているつもりでした。それゆえ、議論する学生のすぐ近くにいながら自らは議論に参加できないもどかしさは相当なものであり、とても残念に思いました。

②介入するけど参加しない

自身が担当するグループには他のグループよりも良いプロダクトを作成してもらおうと思うのは TF として当然かもしれませんが、あくまでもプロダクトは学生のものであって TF のものではないから議論に参加すべきではありません。しかし、時間内にプロダクトを仕上げてもらふ必要性から議論に介入することを求められます。いわば消極的積極性を要求されるかのようで、私には難しい役回りでした。

③醍醐味というべきもののひとつ

テーマや成熟度によって異なりますが、議論を進めるうえで欠かせない言葉や概念がいくつもあり、それらは遅かれ早かれ議論の場に顕出されるものです。議論の中で予想を超える素晴らしい言葉・概念が現れ、議論が大いに発展したときは、それが私自身が関与したものでなくとも、とても嬉しいものであり、TF の醍醐味のひとつではないかと思えます。

グループ IB 氏名 相良 篤信

昨年 の第3回 WS 以降、実行委員会の先生方に「第4回 WS では卒業生タスクフォースとして4期生の討論に協力させていただきたい」という要望を出し協議された結果、今回は『タスクフォース見習い』として参加させていただけることになりました。これまでは討論する立場として WS に参加させていただきましたが、タスクフォースとしての WS は初めての経験となりました。グループにおけるタスクフォースの役割や行動の仕方は、WS を今までとは異なる角度から見ることとなり大変勉強になることばかりでした。また間近に4期生の討論を聞き、プロダクトを作成する過程を拝見できたことは大きな収穫でした。総合討論においては「6年制薬学教育」に対する質問が集中していたのが印象的で、新コアカリが改訂されますが引き続き薬学教育の議論を行う必要性を強く感じました。また4期生より卒業生が手を挙げる必要がないほどの活発な質疑応答が行われ、とても嬉しく思いました。

卒業生にタスクフォース見習いとしての貴重な機会を与えてくださった実行委員会の先生方に深く御礼申し上げます。今後も横のつながり、さらに縦のつながりを強くして、薬学に貢献できるように努力させていただきます。

グループ IB 氏名 白石 彩奈

今回、タスクフォース見習いとしてワークショップに参加させていただいて、最も印象に残ったのは、人間は一瞬にして成長するという事です。学生さんの討論を2日間見ていましたが、1日目は、時間配分などあまり上手くいっておらず、プロダクトが完成するかヒヤヒヤしていました。ですが、2日目になると、こちらの助言なしに、時間配分を計算しながら討論を進めていくのを目の当たりにしてとても感動しました。プロダクトを作って、発表できるまでに完成させるという目標があれば、それに向かって自然と成長していくことを学びました。この経験を今後の仕事に活かしていきたいと思います。

また、今回参加して感じたことが一つあります。それは、討論の論点があまり教育面に向かなかったことです。KJ法の問題点として「教育の不十分さ」などが挙げられているにも関わらず、二次元展開法になると、重要度が低い位置に設定されてしまったため、今の現役学生が感じている教育に対する考えが聞けなかったのが残念でした。WSは、学生の生の声を聞くチャンスなので、次回は、テーマや討論方法を工夫して、教育面の討論に時間をついやせるようにしてほしいと思いました。

グループ IB 氏名 吉田啓太郎

全国学生ワークショップに参加させて頂いた回数が、今回で4回目となった。台風に追われながらの移動という事もあり、印象深い回だった。

タスクフォース見習いという新しい枠で参加させて頂いたが、私にとっては研究室で先輩を指導する延長の様なもので、非常に面白い経験だった。研究室の延長のように思えたのも、SGメンバーの前向きな参加態度とタスクフォース大津さんのご指導のお陰である。また、今回はタスクフォースの先生方と少し近い立ち位置におかせてもらったお陰で、第1回～第3回とは異なる刺激を得る事ができた。加えて、私が悩み、自己流で見出した答えを迷いながらも進んでいる事に対して、今年の教育講演も明確な考え方を示してくれた。私にとって全国学生ワークショップは、人としての円熟に深みを与えてくれる機会となりつつあるように感じる。

今回は、第1回～第3回のようなディスカッションに参加する事が無かったので、燃えて終わるという事にならなかった。燃えずに終わることが少し残念だったが、落ち着いて振り返ってみるとディスカッションに参加しないからこそ得たものがあり、それに気付いてから燃え始めた次第である。

グループ IC 氏名 音羽 亮

昨年は薬学生として参加させて頂きましたが、今回は卒業生タスクフォースとしてワークショップに携わらせて頂きました。実際に社会に4ヶ月出てみて、学生時代に思い描いていた理想の薬剤師像とのギャップが大きく、改めて6年制卒の薬剤師としてどうあるべきか薬学生の討議を聞きたいと思い参加しました。

タスクフォースとしての心得や薬学生へのアプローチの仕方、役割など学ぶことが多く大変貴重な経験をさせて頂いたと実感しています。参加する前までは「学生の意見をいかに引き出せるか」というのが大切だと思っていましたが、先生方にご指導頂き、「討論を見守り、発言を少し我慢すること」の大切さを学んだり、「学生の行動が変わるのが成長の証」といったことを実際に目の当たりにすることができ、タスクフォースの難しさと同時にやりがいを見出すことができましたと思います。学生のサポートをするために参加させて頂いたのに、私自身が学ぶことが多く、また、薬学生に理想の薬剤師を目指すことの大切さを再認識してもらいました。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さった日本薬学会ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。私達もワークショップ開催したり、薬学のさらなる発展に貢献していきたいと思っておりますので、これからもご指導の程よろしくお願い致します。

グループ IC 氏名 小野寺 祐里香

今年は「タスク見習いとして参加したい」というわがままな意見を受け入れて頂き大変感謝しています。

今回タスク見習いとして参加し感じたことは、周囲から見る事がこんなにも難しい事だということです。『見る・観察する』という行動は誰でも出来ますが、学生との距離、気配り、円滑な進行のためには？など考えた時、タスクの話し方や立ち位置、物の配置やタイミングで全てが変わるということを初めて経験しました。

また意見を聞くだけではなく正しい方向へ誘導する。でも、それが強制ではなく手を差し伸べる、という行為がこんなにも大変なことだとは思っていませんでした。このタイミングはすぐにわかるものではないので、時間はまだまだかかると思いますが、継続して参加し身につけたいと思いました。

今回、学生の意見等を聞き、改めて考慮すべきこと、また学生ならではの視点に触れたことがとても新鮮に感じました。そして自分とは異なる視点から物事を見ることの大切さを改めて実感しました。

今回、タスクフォースの皆さんにもう一つお願いを聞いて頂けるのであれば、私たちタスク見習いの動きはどうだったか意見を聞かせて頂けたらと思います。

グループ IIA 氏名 小嶋 崇弘

3回目のWS参加となるが、初めて運営側をやらせてもらい、サポートの難しさ、様々な人の力があって成り立っていることを改めて実感できた。今回のWSを通し一番感じたのは、自分達が学生だった時より多くの問題に目を向け、考えて発言している人が多くなっていることである。これは6年制となり、現場を経験し、国・医療の問題に目を向ける機会が多くなってきた賜物だと感じた。ドラッグストアで勤務していることもあり、お客様、患者様からのニーズが多様化していると感じる。医療人として、ジェネラリストやスペシャリストを目指すというのは良く聞かれるが、今回の講演を通して、一人の医療人として社会的に使命のあるプロフェッショナルな存在であることを心に留めておきたいと感じた。様々な価値観を持つ方々との交流は初心の大切さ、何事に挑戦していくことの大切さを思い出させてくれ、日々の業務を見直す良い機会であった。このような機会を設けて頂きました薬学会の皆様方には感謝し、WSを通し、多くの問題に取り組み、そして外部に発信していけるよう今まで以上に一致団結できたらと強く思えた。私にとって今回のWSは良い刺激となり財産となった。

グループ IIA 氏名 中谷 静香

この度は、第4回全国学生ワークショップにタスクフォース見習いとして参加させて頂き有難う御座います。

昨年第3回全国学生ワークショップに参加させて頂いてから早いもので1年がたちました。国家試験や社会に出るといったイベントを経て、今回改めて課題について考えてみると視点が変わっていることに驚きました。また、学生として参加させて頂いたときにはタスクフォースが介入しすぎだとグループ内で話していましたが、実際に見習いという形で学生の討論する姿を見ると、「待つ」事の、そして「誘導はせずにテーマからそれない様に見守る」といった行為がいかに大変かを痛感しました。しかし同時に討論を見守ることは楽しくもあり、2日間という短い間ではありましたが貴重な体験が出来たことを心から感謝しています。今後の活動にも生かせる様、精進していきます。

末尾になりましたが、今回第4回全国学生ワークショップを開催するに当たりご尽力下さりました皆様に心より感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

グループ IIB 氏名 松岡 由紀

今回、第4回日本薬学会学生WSにタスクフォース見習いとして参加させて頂き、前回とはまた違った視点で、今の薬学のあり方や、薬学生の考えを知ることができました。薬剤師として働きだした今、学生のうちにやっておきたかったことや、学んでおきたかったことが沢山あることを日々身に染みめています。参加の薬学生たちから、現在の医療の間

題点がいくつか挙がっていましたが、「医療費の削減、薬剤師のプロ意識の低さ、積極性のなさ」など、確かに納得するものもありました。しかし、実習を半年間行っている今でも、いまだ見えていない部分が沢山あることがわかりました。

また、今回参加させていただいたことで、前回第3回の時に出会えた仲間と再会することが出来たのも、このようにタスクフォース見習いとして参加する大きなメリットだと感じています。

今後、このWSを生かしていくために、学生の意識改革はもちろんのことですが、もう少し先輩として、何かアドバイスが出来ればと思いました。

グループ IIB 氏名 吉川 望美

今回のWSではタスクフォース見習いとして参加させて頂き、大変貴重な経験を得ることができました。この場をお借りして、第4回全国学生WS実行委員の先生方と、参加された学生の方々に、心より感謝申し上げます。私たち2期生は、今年の春に手作りのWSを開催するなど、常にこのWSの繋がりを発展させることが出来ないか模索し続けてきました。今回タスクフォースという役割を実際に体験できたことは、人生の大きな財産となりました。実際に行動、体験してみる事ほど勉強になることはありません。今後も全国の約280人の仲間との繋がりを大切にしていきたいと思います。タスクフォースとして議論を見守る中で一番印象に残ったのは、4期生たちの視野の広さでした。私が学生の頃は、彼らほど医療の問題点を見つめることも、解決策を考えることもなく、ただ目の前の実習や課題をこなすことに必死であったと思います。純粋な彼らの目に映った問題は、今私の目の前に立ちただかっている問題です。いざ社会に出ると、実際は体当たりの経験することでしか解決のヒントが得られない問題ばかりですが、4期生たちと一緒に、私も実行可能な範囲から解決策に取り組んでいく決意です。4期生たちには、このWSで打ち立てた自分の「アクションプラン」を胸に、残りの学生生活を楽しんでもらいたいと思います。今後も卒業生として、様々な形でこのWSに関わっていききたいと思います。この度は貴重な機会を頂き、本当に有難うございました。

グループ IIC 氏名 黒岩 亮平

この度は、タスクフォース見習いとして運営の立場からワークショップに参加させていただいたことを大変光栄に思っております。

私にとって大変有意義な経験となったのは、ワークショップを支える側として学生達と関わったからです。プロダクトが出来上がるまでのグループ討議を間近で観察し、はじめは腕を後ろに回して議論を聴いていた学生が、次第に腕を前へ出し、遂には身を乗り出して議論に加わっていたので嬉しく思いました。

私達も同様で、異なった境遇を経てきた者同士が、活発な議論を通して打ち解けました。悩みや不満、夢を真剣に語り合うことで生まれたエネルギーは、卒業後の進路において大きな原動力となっています。そんな経験を彼らにもしてもらいたかったので、タスクフォースの議論への過度な介入を防止し、プロダクトの良し悪しに関わらず、エネルギーが生まれる議論をしてもらえるようにタスクに臨みました。

タスクフォース見習いを通して感じたことは、マネジメント能力の向上が期待できるということです。今後より本格的に運営に携わることで、職場においても後輩の教育指導等に活かせる、より良い人材の育成に寄与できるのではないのかと考えております。

グループ II C 氏名 志田 美春

4期生の皆さん、そして卒業生とタスクフォースの皆様。このWSを通して、また多くの方々との新たな出会いがありました。このような機会を賜りましたことに感謝いたします。

4期生の皆さんの討論やプロダクトからは、私たちは皆、薬剤師(=薬剤師免許所有者)であるということが感じとられ、共に明日の医療を築く仲間として頼もしさを覚えました。また、これから私たちは様々な社会経験を積むことで各々がさらに独自の観点をもつようになりますが、観点の違いを理由に対立するのではなく、皆で一丸となって、観点多様性を薬薬連携の充実につなげていきましょう。

今回はタスクフォース見習いとしての参加であり、願ってもない機会でした。意気込んでトライしたものの、要領をつかむことはできませんでした。不完全燃焼の一言に尽きます。しかし、この経験を通して、私たちがWSの運営に貢献するという道がひらかれたと感じました。この道をさらに切りひらいていくために、自分にできることを模索します。

末筆ですが、関係者の皆様に改めてお礼申し上げますとともに、このWSの輪がますます広がることをお祈りします。

グループ III A 氏名 井元 優美

昨年日本薬学会第3回全国学生ワークショップでは、「薬学界を変えるのは、将来薬剤師となる私達自身であり、この意識を持つ仲間を増やすことが今後の課題である。」ということ学びました。そして、今年卒業生タスクフォースとして参加した第4回の同ワークショップでは、「昨年学んだ薬学界の課題を共有する難しさ」を新たに学ばせて頂きました。本ワークショップを通して、昨年感じた薬学界の問題点を共有する方法の技術が現段階で私は全く兼ね備えていないことに気付かされました。しかしながら、担当グループの学生、タスクフォースの先生方、そして他の卒業生タスクフォースの方々からお力添え頂いたおかげで、何とか本ワークショップをやり遂げることができました。

今回、「薬学界の教育者の一員として必要な技術を今後磨かなければならない。」という

課題も見出すことが出来ました。これは参加者という立場では気付くことが出来ませんでした。将来「薬剤師」ではなく「薬学」という広い領域で関わっていくことが出来ればと思います。最後になりましたが卒業生タスクフォースとして参加させて頂き、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

グループ IIIA 氏名 志田 拓頭

今回は、私たち WS の卒業生がタスクフォース見習いとして参加させて頂きました。このような試みに賛同し後押しして下さった、タスクフォースの先生方はじめ関係者の皆様に感謝しております。

タスクフォースの仕事は、指導とかサポートというより、4期生の議論を”見守る”ことが主だったように思います。「自分も議論に参加したい」という気持ちは正直ありましたが、主役はあくまで4期生だからと、極力介入せずに裏方に徹するよう努めました。

ただ、時には、議論に別の視点を投げ込むなどして、短い時間の中で効率的な議論を促すことも必要だったのかと思います。口を出すまいと思うあまり、そのタイミングを逸してしまったケースがいくつかあり、次回への反省点だと感じました。それでも、私の担当したIII Aは、どんどん発言する人や分析的に議論を眺めている人、新しい発想を投入する人などいるバランスのよいチームで、彼ら自身で議論を深め、成長していってくれました。とても頼もしかったです。

4期生みんなが、このWSで得たもの（それは、プロダクトに示された、議論の「結果」だけではないはずですが）を持ち続け、これからは活かしていってくれればと思います。みんなにまた会えることを楽しみにしています。

グループ IIIB 氏名 円入 智子

今回、24時間という限られた時間で私が出ることが出来たものは、想像以上のものであった反面、手放しで喜ぶことが出来るものではありませんでした。3度目の参加であるにもかかわらず、幸せなことに、多くの学びや発見がありました。タスクフォース見習いという役割を通して、参加者側とタスク側の両方の気持ちを察することが出来たことが大きかったのだと思います。しかしそれは一方で、自分が知らないことがそれほど多かったのだという現実を突きつけられたということでもあると思うからです。

私は、今回のワークショップをゴールではなく通過点（スタートの一つ）にしなければならないという責務を与えられたと感じています。「あと365回、同じ長さの限られた時間を過ごす中で、経験によって得られたものを活かし、成長することが出来るのか」「参加者にとってプラスになる存在となり得るのか」そう簡単に解決出来る課題ではありませんが、今日から一つずつ始めたいと思います。

最後に、私にとって“薬剤師としての初心の象徴”であるこのワークショップに今年も参加させて頂くことが出来ましたこと、そしてタスクフォース見習いという貴重な経験をさせて頂くことが出来ましたことを、心から感謝申し上げます。

グループ III B 3期生 日原 章詔

昨年は学生でこのワークショップに参加しましたが、今年はタスクフォース見習いとして参加させていただきました。

タスクフォースの役割にはディスカッションなどがスムーズに行われるようガイドすることや全体の流れのチェックなどがありますが、どこまで学生のディスカッションに介入していいのかわからず難しいと思いました。また、ディスカッションの内容を聞いていて自分も話したいと思う場面がたくさんあり、去年の自分たちもこうだったのだろうなと思いました。

そんな未熟なタスクフォースでしたが、グループでのディスカッションは活発な雰囲気や4期生の方々の熱い思いが伝わってきました。このワークショップには各学校から1名しか参加していませんが、熱い思いを持った学生は全国にたくさんいると思います。そのような学生が学校を越えて自由に討論できる場をもっと用意していけたらいいと思いました。

私も薬剤師になりましたがまだまだ未熟なため、熱い思いをもって日々多くのことを学んでいきたいと思っています。

グループ III C 氏名 磯崎 未帆

タスクフォース見習いとして参加して、学生との距離感や介入のタイミング・言葉選び等悩みだらけでした。自分の意見をしっかり言える参加者が多い中で、自分の意見をいうことに遠慮してしまう参加者がいる時・良い意見が埋れてしまいそうな時などにタスクフォースができることについて、沢山悩んでより良い介入の仕方を模索していきたいです。今回、見守りや介入で参加者の雰囲気や行動が変わっていく姿を見た時に素直に嬉しく感じたので、タスクフォースの経験をもっと積んでいきたいと思いました。

1日目はディスカッションへの介入の仕方ばかり気にしていましたが、2日間を通してWSの運営には細かい事前準備、片付け、タイムキープ等も把握する必要があると気がつかされました。このような配慮全てが素敵なWSを生み出す原点であると感じました。

最後の総合討論では、指名しきれないほどの挙手、熱い想いを大きな声で発表する姿を見ることが出来て感動しました。そして、意見として出てきた問題点・解決策についても話し合いたいとも感じました。2日間では終わらない、どんどん広がるWSの輪を今後も大切にしていきたいです！

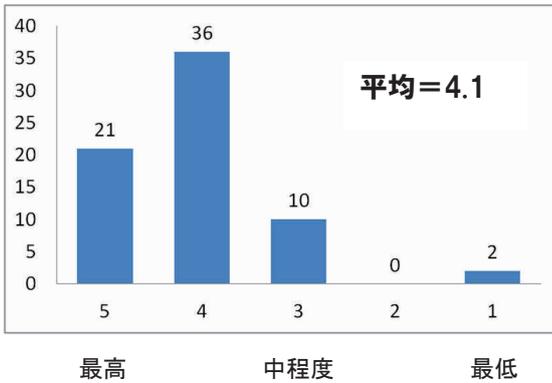
第4回 WS を一言で言い表すのであれば、“薬学の希望”だと感じている。それは、総合討論で学生たちが将来の夢を語り合った熱い時間と、私たちが少しでも WS 運営側としての経験ができたことに起因している。参加した学生達がのびのびと発言し、互いに刺激し合うことで最終的に素晴らしいアイデアや議論となっている場面を多く見かけた。共鳴とも言える現象は学生間のみならず参加者全てに存在し、熱い思いがぶつかり合って大きなうねりとなり薬学発展の大きな一歩となると確信している。また、今回タスクフォース見習いとして参加した際に、口を挟みたくなる感情をぐっと抑え、議論している学生を心から信じることで最終的に学生が自ら進んで発言し活気に溢れた WS となったと感じている。私たちが学生にかける言葉の一つ一つは重大な責任を伴い、時に彼らの人生を左右しかねない。その一方で、学生が成長する瞬間に立ち会えたという感動とやりがいがある。今回感じた想いを胸に抱き続け、ゆくゆくは私たち卒業生が WS を引き継いでゆくことで薬学教育の新たな可能性を模索したいと考えている。

最後に、私たち卒業生にこのような貴重な機会をくださった日本薬学会の方々と、タスクフォースとしてのあり方を背中で語ってくださった諸先生方に感謝しています。

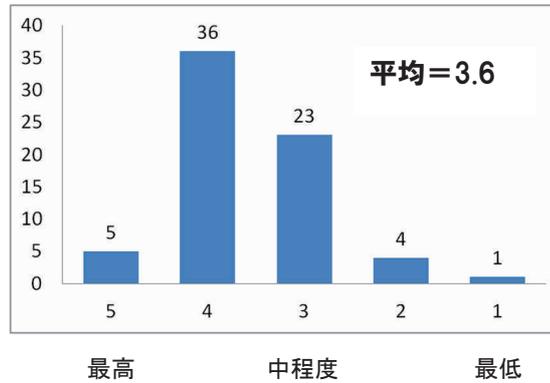
参加者 アンケート結果

第1日目の評価

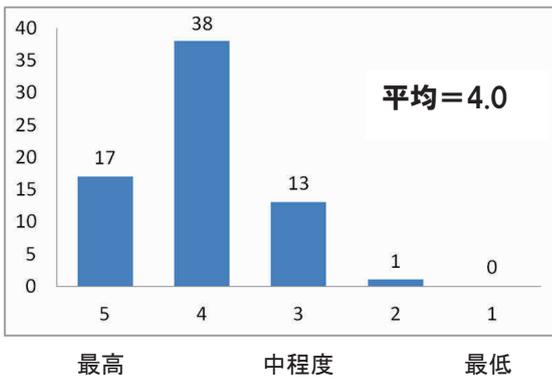
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



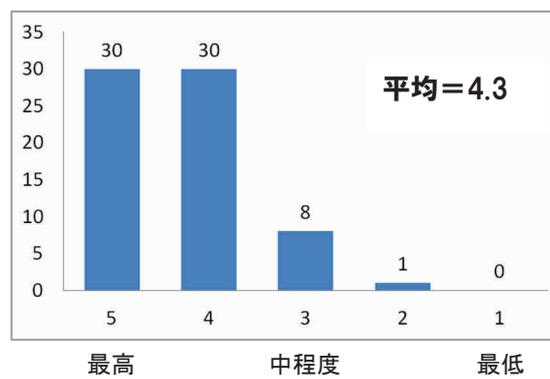
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- ・ 大学間の授業の差について
 - 他学部とグループディスカッションをする時間が設けられている。
- ・ いかに関自分が薬学教育について振り返っていなかったか。
- ・ 他大学における薬学部の良さを知ることができた。また、それぞれ志す道が異なる学生が多く、なぜその道を選んだのかというバックグラウンドを知ることができた。
- ・ 地域性による考え方を共有することができ、多くの学生と話すことができた。
- ・ それぞれ自分の意見を持っていて、異なる考えも聞けて良かった。大学によっても特徴があるようで、それも楽しかった。
- ・ 同じ薬学生でも、医療に対する考え方など色々と異なる意見があるのだなあと思いました。
- ・ EBM からの NBM にすることが医療であるということ。
- ・ 大学によってどのような教育・実習を受けてきたのかが違うこと。
- ・ 他大学の教育について、学生が考える医療の現状。

- ・ 各個人で考え方が違って刺激になりました。自分の意見をしっかりと持っている人たちと議論できたことは収穫です。皆、今の教育や薬剤師の立場について問題を感じていたり、疑問があるということを知りました。
- ・ 医療の質の向上、患者さんの QOL、心を治すには、Sclena と物語の両方が必要であること。
- ・ 教育を受けるだけでなく、自ら学ぶことをしっかり行うこと。
- ・ world cafe を通して、6 年制薬剤師の卒後のあり方に多くの学生が、今の問題点と希望を持っているということがよくわかった。
- ・ 自分より高い志を有する学生が沢山いて、非常に刺激となった。医師である木下牧子先生の講演は非常に学ぶことが多く、薬剤師として他職から必要とされる人でありたい。
- ・ 薬剤師の抱える問題点を、色々な大学の学生の視点から指摘でき、考え方が違い、とても面白かった。その中で薬剤師は科学者であるべきか、それとも医療人かの議論は異なった意見で、良い経験となった。
- ・ 他大学の学生も薬学教育や医療について同じような考えを持っている一方、様々な異なる経験をしてくれているということがわかりました。
- ・ 他大学の人の意見が聞け、どういう風に思っ Ph になろうと思ったとかの思いが聞いて良かった。
- ・ 現時点での自分たちが思う改善点をあげられたこと。
- ・ 薬剤師になるため 6 年間学んできた中で、他大学の人と関わることはあまりなく、お互いの考えている事を共有することができとても良かった。
- ・ 薬学部の進路といったら、病院・薬局・DS など臨床しかイメージがなかったけれど、実際、自ら学んで目標をつくったら何にでもチャレンジ出来るという可能性を知ることが出来た。
- ・ 大学によって考え方がこうも違うのかと思った。
- ・ たくさんの学生とディスカッションをすることができ、それぞれがどのような思いで学んできたのかということを知ることが出来、楽しい時間を過ごせました。そしてそれぞれが、その考えをどの様に将来につなげていきたいと考えているのかを知ることが出来ました。
- ・ ”Professional とは”の講演
 - 専門性について理解してきたつもりでも、まだまだな部分があること。また、さらに学ぶべき、身につけるべきことがあることがよく分かった。
- ・ これからの薬剤師として求められること。
- ・ 他の薬学生が自分と同じ考えを持っていること。
- ・ 他大学での実習環境・大学生活が見えた。
- ・ プロフェッショナルリズムの考え（自分の大学でも皆に話をしたくなった）
- ・ 他の薬科大学の方が何を思っているのか。
- ・ 現在の医療の問題点
- ・ ディスカッションにおける役割とその適性について、その重要性を理解できたと思う。タスクフォースがいる中でも学生主体の討議を促していただくことが出来、適度な緊張と楽しさをもって活動できたと思う。薬学生として考えられるものが自分の思うことよりもはるかに多くあることも理解できた。
- ・ 自分の考え方がまだまだ甘いという事。

- ・ 実習先格差が想像以上に大きい。
- ・ 医療現場の課題とそれに対する薬剤師のあり方
- ・ 学生の方々がみな同じようなことに問題を感じていたこと。問題に対しての答えは異なることもあり、解釈も異なり、それらが受けてきた教育の影響も少なからずはあるのだと思いました。
- ・ 薬学部に入った理由はそれぞれだが、みんなそれぞれ高い志を持って薬剤師を目指しており、医療における問題点も同様のことを思っているんだと感じた。活発に意見がとびかうので刺激的でたくさん考え、話すことができた。
- ・ 学生・大学の多様性
- ・ 医療における学生目線での問題点
- ・ 薬剤師の任務的なことも改めて分かったし、薬学部から出る生徒がみんな薬剤師を目指すのではなく多くの職種があると感じられた。
- ・ 薬学部という学部は幅広い進路があることであるということ。各大学で大きな違い（学部横断授業や海外研修があるなど）があること。
- ・ みなさん、しっかりとした考えをお持ちでそれぞれの考えを知ることができた。
- ・ 様々な大学のお話を聞けて、また、いろいろな考え方を持った人、いろいろな進路に進む人と話し、情報共有したことで、薬学部の多様性を改めて認識することが出来た。
- ・ 議論のすすめかた
- ・ 木下先生のお話において、薬剤師に求められることをはっきりと示していただけたことが良かったです。よく理解できたとは言えませんが、薬剤師として医療を考えるきっかけをいただいたと思っています。
- ・ 他大学のカリキュラムの違いや、学生間との教育・薬学に対する違いを認識できた。
- ・ 同年代の人の中で、今の医療についてどのようなことを考えているのかなどを聞くことが出来、行っていかなければならないことなどもイメージすることが出来ました。
- ・ 各大学間の制度の違いなど。
- ・ 大学は違っても同じような不安（不満）を持っているということ。
- ・ 参加者は皆、数ある現在の医療の問題点の根本には、学校での教育があると考えている事。
- ・ 発言者が多いイベントでは聞く側に回り、まとめを心がけることの大切さを感じた。
- ・ プロフェッショナルの真の意味。実際に医師として活躍・教育してこられた先生のお話を聞いて本当の医療を考えることが出来た。
- ・ 木下先生のお話から、医療としてあるべき姿、目指すところなどを聞き、非常に身の引き締まる思いでした。特に他の職種の方々とどのように関わるのか、というところは大変勉強になりました。
- ・ 他大学の薬学生との価値観の共有や違い。
- ・ 医療の問題について同年代の薬学生がどのような意見をもっているか。
- ・ プロフェッショナルについての考え方を深めることができた。
- ・ チーム医療の重要性
- ・ 他大との教育内容の差が予想以上に大きかった。大学間の違いが認識できた。
- ・ 現状での医療の問題点を再確認できたこと。
- ・ 薬剤師が出来ることが多くあること。

- ・ 全国各地の大学の学生が集まっていましたが、薬学教育に対して感じている疑問や不安などはある程度共通しているのだと理解しました。そういった不安について、情報交換していきたいと思いません。
- ・ 学校間での教育の違いや、将来の進路がさまざまだったので一つの問題に対して色々な角度から介入して色々な意見もあり、有意義な時間でした。
- ・ 他学における薬学教育の現状。
- ・ 自学で行ってほしいこと。
- ・ 自分の大学以外の他大学のカリキュラム
- ・ 教育内容について
- ・ 薬学という学問に対する幅広い考え方
- ・ 多くの人と話すことが出来、その人ごとに薬剤師に対する考え、問題意識など異なる考えを持っており、意見を集約すればすばらしいディスカッションができるということ。
- ・ 環境が違う中で、同じ6年制薬学教育を受けて、同じような志、または自分以上の考え方を持っている人が大勢いることを知りました。
- ・ 木下先生のお話を通じて、将来あるべき姿のイメージができた。患者の背景を確認して投薬するということは、実習中から大いに感じてきたことなので、それが正しい道だと分かった。
- ・ 皆、色々な考えを持って、6年間教育を受けてこられたのだなあと思いました。医療を考える上で、経済的な視点・教育に特に問題を感じている学生が多いことが分かりました。
- ・ 自分が、自分の理想を案外きちんと思い描けていることに気づきました。
- ・ 学生一人ひとり、やはり考え方が違い、また地域によっても多種多様の考え方がある。片寄った視野だけでなく、この様な場で広い視野を持つ事が今後必ず役に立つと思います。
- ・ 他の人がどういう思い、考えを持っているか。
- ・ **Ph, Dr, Ns** で **Science** と **Narative** の割合が違うこと。
- ・ プロ意識の重要性について。**KJ** 法での **SGD** においても学生たちのみで話し合い、その後の教育講演でも同様のテーマだったので、改めて多く考えることが出来ました。
- ・ 他大学におけるカリキュラムの違い
- ・ 大学ごとの工夫
- ・ 大学ごとのカリキュラムや教育方針に大きな差があること。
- ・ 各個人が医療に対して様々な要望や期待を持っていることが分かった
- ・ 薬剤師として働く上で、必要な心構えを理解することが出来ました。
- ・ それぞれの大学のカリキュラムなどの良い所、悪い所などを知ることが出来ました。
- ・ 現在の医療の問題について、他学生がどのようなことを問題視しているか。
- ・ 現在の医療の問題点について考えましたが、問題の中心点と考えていたことに、さらにその前提となる問題点があることに気が付きました。
- ・ 薬剤師として、根本的には患者さんの利益を考えなければならないということを改めて認識しました。
- ・ **EBM** など、何をやるにしても患者さんの利益を考えなければならないと感じました。
- ・ 皆、同じ薬学の6年生ながら様々な考えをもっていっしょのことを知りました。また、実習、大学での学習を得て、何か変化を求めている方も多く見られたことに驚きました。

- ・ 薬剤師がもっともっと他の医療の領域に入っていく必要性を感じた。どちらかという控えめな薬剤師が、医師、看護師などと激しい議論をすればよりよい医療につながると思う。しかしそのためには、薬剤師の能力の向上が本当に必要で、そのために何か解決策を見つけていきたいと思った。
- ・ 自分だけの狭い考え方だけでなく、他大学の学生さんの考え方を得られることにより、
 - ”薬剤師”について以前より理解できたと感じています。
- ・ 今抱えている医療問題について様々な意見が出ていたので他人の考えの共有が出来た。
- ・ 薬剤師として働く上で大切なことを改めて理解できた。
- ・ 医療問題について、自分の中で思っていることを改めて整理できた。
- ・ 他の人の考えを色々と聞いて良かった。
- ・ 今、私たちに何を考えてほしいのかという事。
- ・ 同じ学年、同じフィールドに熱い仲間がいるという事。
- ・ プロフェッショナルリズムの確立について。
- ・ 将来の自分の姿をしっかりとイメージ出来ている人が多いと分かった。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- ・ 第1～3回WSがどの程度コアカリキュラムに反映されているか。
- ・ KJ法の最終的な形となるタスクフォースに導いてもらうことになった。(前年度の)サンプルなどを示していただけたら、より違う意見を出しやすかったのでは？
- ・ 6年制になって薬学教育の改善されているのか。
- ・ 4年制から6年制になったことは正しかったのか。
- ・ 6年制と4年制における現場での違い(どう差別化すべきなのか)
- ・ 医者と薬剤師の地位格差を埋めるための絶対的方法。
- ・ 臨床現場で行う必要がある教育。
- ・ 今後の薬学の方向性
- ・ 意見交換の中で、それぞれの学んできたことに差があり、理解しきれないこともあった。今後のセッションで理解できるようもっと意見交換をしたいと思う。
- ・ 特にありません。このstateで、十分良いワークショップとなります。
- ・ 別のグループの人とまだコミュニケーションが出来てないのでもっと話を聞きたい。
- ・ 初対面の人が集まってプロダクトを作るのが難しかったです。
- ・ 薬学教育についてディスカッションをしてきましたが、やはり自分達に何が必要で求められているか答えを出すことが出来なかった。
- ・ 特にありませんが、もっと実習のエピソードとか盛り込んだディスカッションをしたかったです。
- ・ 現在の医療制度がどのようになっているか。
- ・ 初対面となる人とコミュニケーション方法をもっと模索すべきであると感じた。
- ・ 実際にどのような意識をもって社会人になるべきなのか。(今後、教育現場が変わっても、私達には影響が少ないため、意識の持ち方に注目すべきなのかなと感じました)
- ・ やはり、国立と私立では学んでいることや学校の特色が違って話が分からないところもあった。(KJ法のところ)

- ・ 学生個人々々の価値観についてもっと深く知れるとよい。
- ・ KJ 法の討論は難しい。
- ・ みんなの背景を生かしての討論
- ・ SGD の時間が短く、1つ1つ”島”の内容についてあまり議論できなかった。
- ・ 異なる意見をどのように上手くまとめて、それを他者に伝えるかとても難しく感じました。
- ・ 6年制教育から見た医療の問題点（ワークショップⅡ）で問題点は見つかったが、それに対する具体的な対策についても議論出来れば良かった。
- ・ 過去、現在、未来の薬剤師の状況が漠然としていて、あまり理解をすることが出来ませんでした。
- ・ 薬学教育がどう変わっていくべきかについての具体的なところ。
- ・ 健康食品に対するフォローはどの医療従事者が担うべきか。
- ・ ディスカッションでは、より詳細な部分について話したり意見を聞いてみたいと思いました。
- ・ 研究や大学院の問題がそれほどとりあげられなかったこと。
- ・ world café の進め方が最初よく理解できませんでした（進行していく中で理解）
- ・ 第2部の議論のゴールが分かりにくかった。
- ・ お互いを知り合う時間が短かったため、一緒に集まっている仲間たちへの理解が不十分だったと思います。情報交換会で理解を深めていきたいと思います。
- ・ タスクフォース見習いの人の意見をもっと聞きたかった。
- ・ 現在の医療・教育の問題点は分かったが、それを改善するために行うべきこと。
- ・ 現状の医療の問題点とそれをとりまく様々な要因や問題間での関わりをもう少し討議したかった。
- ・ 薬剤師の地位の低さについて、重要性があまり理解できなかった。
- ・ 医療の問題点については、ある程度のベースが出来ていれば良いかなと思った。議論がそれってしまったこともあったので、もう少し具体的なものであれば嬉しかった。
- ・ まだまだ話が出来ていない参加者の方も多く、細かな意見等捨てきれなかった部分がある。
- ・ 大学の教育と現場のギャップについての話題になりましたが、具体的に、他大学の皆さんがどういった部分にギャップを感じているのか討論したいと思いました。
- ・ 問題点と手段の関連性について
- ・ 第1部のテーマについて。テーマ2は大学生活を振り返るために設定されていたようですが、意図がつかめませんでした。より具体的な方が良いのでしょうか？3テーマ中で盛り上がり方が少し違いました。
- ・ 医療や薬学教育に関して、自分たちが考える不十分な点について、どのように解決していくべきか。
- ・ 医療における問題点を話し合いましたが、薬学教育を具体的にどのようにすればよいか、完全な答えが出ませんでした。
- ・ 問題をあげた事に対する解決策など。
- ・ 今日はただ問題点を挙げることで精一杯だったので、なぜそれが問題と感ずるのか、解決策は？ということをより深めたいです。
- ・ 他の学校での学生の意識
- ・ SGD の際に皆さんがどんどん積極的に発言されていて、とても展開が速かったため、作業についていけませんでした。皆さんがどうしてこんなにすごいのか驚きを隠せませんでした。

- ・ 現在の医療の問題点について。他の班の発表時間も短く、後の見る時間も少ないように感じました。
- ・ 少し質問の意図とはずれてしまうかもしれないが、6年制の教育が薬剤師を育成したいのか、研究者も育成したいのか中途半端な気がする。そういった教育の面も話し合いたかったと感じた。

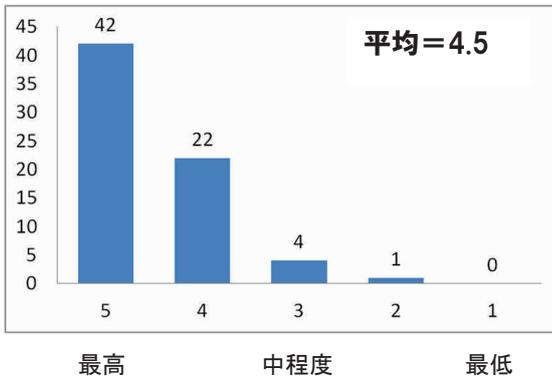
7. 其他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- ・ WSに参加するまでWSの存在を知らませんでした。WSの存在をもっと広める必要があるのではないかと思います。
- ・ なかなかやったことのないワークでとても面白かったです。明日もとても楽しみにしています。
- ・ とてもためになる1日だったが、今までの大学生活でこのような他大学との意見交換の場がなくて残念、またこれまでに参加した先輩の話も会への参加が決まるまで知らなかった。
- ・ もう少し、休憩とワークショップを行う時間とのメリハリ？がある方が分かりやすかったです（少し休憩しにくかったです）
- ・ P毎のアイスブレイクだったので、Sに分かれた時に少し議論に入りにくかったです。
- ・ 1日目も満足のいく討論、講演を聞くことが出来てとても勉強になりました。
- ・ 今やっている勉強を決して無駄にしないこと。今日集まった他大学の学生から学べた。とても有益だった。
- ・ 明日は今日の体験を生かしてよりよい議論がしたいです。
- ・ 全員に発表などをさせる機会があった方が良いと思った。（みんな熱い考えを持っていてまとめているので発表したいかなど）
- ・ 薬剤師になる上で専門職として、またチームの一員として今後どのように活躍するべきなのか、木下先生にお話を聞きモチベーションがあがった。ありがとうございました。
- ・ 国家試験に向けて合格の為の勉強に勤めてきたが、実際の目標は合格後にあるのだという意識をもつことが出来た。
- ・ ディスカッションの発表時間はもう少し長くてもいい気がしました。
- ・ 自分の大学の友人からは聴けない話が聴けて、大変良い刺激になった。
- ・ 第一部のコーヒーありがとうございました。
- ・ スペシャリストとプロフェッショナルの違いや、医師がどう思っているかを聞くことが出来て非常に良かった。
- ・ 発表がとても上手
- ・ 情報量が多く、整理しきれない事がたくさんあり、理解できていないことが何なのかが分かっていない。
- ・ 他の学生と交流を深めやすい構成になっておりとても良かったです。
- ・ グループワークの時間がもう少し欲しかった。
- ・ world caféが初めての体験でした。少人数だったので1人1人の話を深く聞け良かったです。
- ・ 施設がとってもキレイで気に入りました。
- ・ 薬学部の卒業生の進路は多岐に渡ると思います。教育という視点にするとどうしても医療現場に関する内容になってしまう気がします。（行政や研究なども）
- ・ 自分にとって良い刺激になっている。明日も良い刺激を受け、良いビジョンがもて、今後にかせるようにしたい。

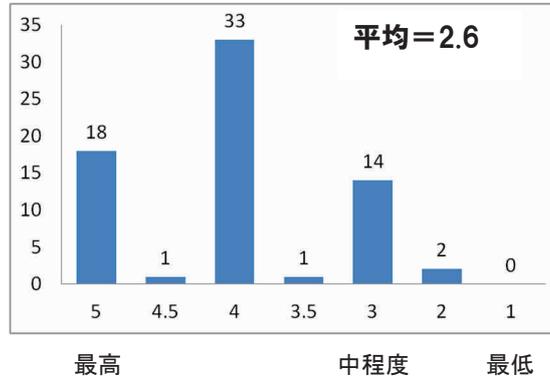
- ・ 初めて world café を体験し、マスターも担当させていただきました。色々な方と効率よく意見交換ができ、すばらしい体験でした。
- ・ 教育講演は薬剤師（病院）を考える自身にとってとても印象に残るお話でした。
- ・ タスクフォースの方などと話す機会があまりありませんでした。
- ・ 様々な地域の同級生と話せ、非常にためになり楽しい時間でした。
- ・ 普段の学生生活では今日のような真剣な話題はあまり出てこないもので刺激になりました。
- ・ 発語に偏りがやや見られた。グループでの討議の際には回数制限、時間制限をやんわり設けた方が良いと思う。
- ・ 自分の意見を上手く相手に伝える練習をもっとしようと思いました。
- ・ プロフェッショナルについてのお話が心にしみました。
- ・ 楽しかった。
- ・ 限られた時間の中で作業することも重要ですが、もっと時間がほしいと感じました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 小グループ討論時間をもう少し延長してほしかった。
- ・ タスクフォースの先生方やワークショップ OB・OG の方々が親切で良かったです。
- ・ world café や KJ 法などさまざまな手法を用いて問題を解決できるのがすばらしかった。
- ・ 現在薬学会が考えている問題点・教育方針等も聞かせて欲しい。
- ・ もう少し SGD の時間を長くしてほしい。
- ・ 多くの意見に触れることが出来、非常に参考になりました。とても有意義な話し合いが出来たとともに、短時間でまとめることの大変さを知りました。
- ・ 学生の意見を上手く引出し、良い距離を保ち指導するはずのタスクフォースが、自分たちの班の意見をかき乱す時が何度かあった。
- ・ 事前に、流れを通知していただきたかったです。（到着後すぐ昼食とは思っていなかったのもので）
- ・ ありのままではなく、良いものを作ろうとしている感がありました。
- ・ 木下先生のお話は SGD の前のほうが良かった。
- ・ 貴重な体験をありがとうございました。
- ・ 移動でかなり疲れていますが、濃い 1 日になっています。
- ・ 将来考えている職種（病院・薬局・MR 等）のそれぞれの話し合いもしてみたかったです。
- ・ とても良い経験になりました。
- ・ 明るく全てのミッションが取り組めるよう配慮していただきありがとうございます。
- ・ world café を行うにあたってグループ人数を多くした方が良いのではないかと。
- ・ 楽しく議論を交わすことが出来て良かったです。
- ・ ディスカッションのやり方が楽しかったです。
- ・ カフェマスターを固定するやり方は、あまり好ましくないと思います。せっかく多くの話し合いの機会を設けていただいているので出来るだけ多くの方にリーダーとしての役割を経験していただきたいと思いました。
- ・ 会場への移動が大変であった。大学によっては前日のホテルの料金などが出ないので、金銭的な負担もあった。

第2日目の評価

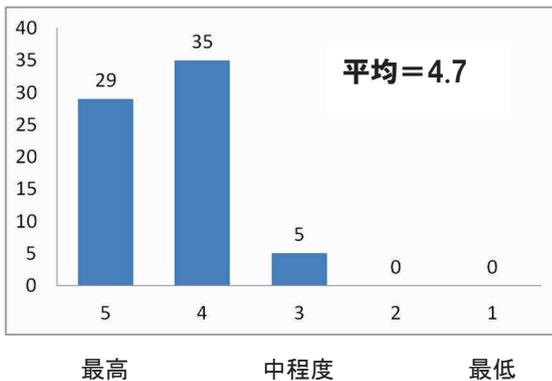
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



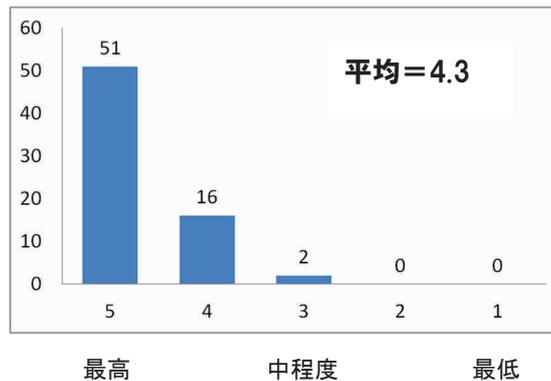
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- ・ 昨日抽出した問題点に対する様々なアイデア、アプローチがあることが分かった。特に自分だけでは考え付かないような意見やこれまで知らなかったことについて知ること、新たな発見が出来、これまでとは違う考え方も出来るようになったと思う。
- ・ また、それぞれが胸に抱く目標や夢も知ることが出来た。
- ・ これから私達が取り組むべきこと。
- ・ 薬剤師のアピール不足が問題であること。アピール方法には広告やドラマなども使用できる。
- ・ 薬学（医療）には Yes, No で答えられないことが多くある。
- ・ 自分の大学の学年の夢と他大学の学年の夢が大きく違うことを知った。それは目標が教育の仕方、学習の仕方と異なってくることを指していると感じた。
- ・ 同じ医療についての問題点をあげたとしても、改善策とかが班で違うのだなと思いました。
- ・ 多くの問題の中ですぐに解決すべきもの。またその解決のしかた。
- ・ 学生が各々考えている問題は多様だが、改善策を考えた時に多くの共通策があるということ
- ・ 地方、都心部での医療の差について。
- ・ コミュニケーションする力はあるから、あと必要なものは経験、自信、勇気であるということ。

- ・ 昨日、抽出出来た問題点に関して、最終的に自分達に出来ることまで解決策を落とし込むことが出来ました。
- ・ 自分がどんな学生生活を過ごせば将来役に立てることが出来るか分かった。
- ・ 医療現場の問題
- ・ みんなの将来
- ・ コミュニケーション能力はあるが、能力、自信、勇気が足りないのだと感じた。
- ・ 現状の問題にはどのようなことがあり、それを解決するために私達が実際にしていかなければならないことを認識することが出来た。
- ・ 多くの仲間がいること。
- ・ 全体討論の意見の面白さ。
- ・ どの学生も薬剤師の地位の向上に関心があるということ。
- ・ 現在の医療制度について強い関心をもつ学生が多いということ。
- ・ 同じような問題点でも改善的のアプローチが班ごとに違って興味深かった。全国には素晴らしい薬学生がたくさんいることを実感し、この経験を他の人と共有したいと思った。
- ・ タスクフォースの皆様の努力、ボランティア精神。
- ・ 薬剤師の技能を上げる必要があると多くの方が問題意識を持ち、解決すべきだと考えていると分かり、よかった。
- ・ みんな、将来の夢や目標が明確だった。国試や卒試に通ることは夢を追いかけている人にとってはプロセスの1つに過ぎないのだと驚いた。
- ・ 日本全国の薬学生の熱い思いを感じる事が出来た。
- ・ 6年制になったことで解決できる問題が増えた。
- ・ いろいろな問題に対しての解決策を多くの人で考えることが出来た。
- ・ 周りの薬学生がどのような事に問題を感じ、解決する方法を色々な方面から考えているという事を知ることが出来た。
- ・ 重要度、緊急度の考えは人それぞれ、チームごとに異なるが、薬剤師を、医療をよくしようという考えはみんな同じであると感じた。
- ・ 薬剤師として医療をよりよくするためによく考えている方がたくさんいることが分かって良かったです。
- ・ 昨日あげた問題点に対して解決策をあげ、薬剤師として、医療費削除という大きな問題に対してもセルフメディケーションや予防医学を通して貢献できると思った。
- ・ 薬剤師の力不足というのは皆、認識しているということ。しかし実際は力を発揮できずにいるということ。背景として知識不足などもあるが、社会の認知度の低さもある。
- ・ 皆さんの目指すところがはっきりと見えていた。
- ・ 問題と思っている内容は同じでも優先度の考えは人によって大きく異なる。
- ・ 私は、自信を持って発言することができなくて、どうしたら自信を持てるようになるのか、EBMや踏み出す勇気であるとかを教えてくださいました。
- ・ 1日目に続き、参加されている皆さんの薬剤師に対する考え、思いが多く聞けたこと。

- ・ 色々な意見が出て、それぞれについて正しい、正しくないの 2 択では語り切れないことがあることを知りました。
- ・ 他県の学生との問題点や解決策が共通だったこと。
- ・ 薬剤師の地位昇上に対する具体的な案がいろいろ出てすばらしかった。
- ・ 今の薬剤師の問題点について、学生時代から変えられることが実はたくさんあるのだと理解できました。
- ・ 薬剤師が社会から何を求められているか、また、それにどう答えるか。
- ・ 様々な学生、教員、臨床薬剤師などの皆さんが思い描く将来像とまたはそこでぶつかる壁をどう超えていくかについて。
- ・ ひとりひとりがどのような薬剤師として社会で活躍しようと考えているかがよく分かった。
- ・ 薬剤師の役割の拡大（セルフメディケーション、処方権など）について、意欲をもっている薬学生が多く、頼もしいと思った。
- ・ 問題抽出→解決策の流れで問題点を明確化し、具体的な解決案を出すことが、変化をおこす（世を変える）ことにつながるんだと実感した。
- ・ 同じテーマでも、こんなに多くのユニークな、そして具体的な解決策がでてきてすばらしいと思った。私達の班では「薬剤師として自信を持ち、もっとアピールしよう！認めてもらおう！」という議論中心だったけれど、そこにはもちろん責任が伴い、相当の覚悟をもって取り組む必要があると最後に考えさせられました。
- ・ コミュニケーション能力はあるし、知識もつけてきた。だから自信を持って薬剤師の職能を発揮できるよこれから志高くやっっていこうと思いました。
- ・ 現在の医療・薬学の問題点に関して、様々な解決策やアプローチ方法を学ぶことが出来ました。自分にはない多くの考えに触れました。
- ・ 今後の医療の問題・対策の SGD を通して、まずこういったことを考える機会を作ることが重要であると思った。
- ・ グループによって医療問題の優先順位が異なっていて、考え方の多様性を感じた。物事を様々な角度から見てインプットして、他の人へ分かりやすくアウトプット出来るようになりたいと感じた。
- ・ 同年代の人の熱い思い。
- ・ 各職種（就職先の）によっても観点が違い、問題に対する対策について様々な角度から考えることが出来た。
- ・ どのグループも全体的に薬学教育に対して危機感を持っているということ。
- ・ 医学に対しての具体的な様々な視点で学ぶことが出来た。
- ・ 具体的な対応策を考えることは非常に難しいということ。
- ・ 問題に対する解決法が議論できていた。
- ・ 問題点を見つけそれを解決する力。
- ・ コミュニケーション能力や薬剤師の職能に対する意識。
- ・ 参加者の皆がどういうことを考えているか。
- ・ タスクフォースの先生方が何を考えているか。
- ・ 参加者それぞれの将来の思いが確認できた。

- ・ 班が違えば考え方も違うので、それをすり合わせる事が大事だと改めて感じた。
- ・ 考えるだけでなく行動にうつして、初めて実りがあるものになると理解しました。多くの問題がありますが、地道に行動することで必ず解決していきます。
- ・ 皆、今の薬剤師の立場や業務、またその育成における教育カリキュラムに対して色々と思っていることがあるということが分かりました。
- ・ 問題解決のため、自分でも考えていなかった意見が出てきてとても参考になった。
- ・ 薬剤師や薬学生が今すべきこと、求められていることについてそれぞれ皆がしっかりと考え、実行している人もいるのだということが分かった。
- ・ 医療問題とその解決案について様々な意見を共有することが出来た。
- ・ 同じ課題でも、取り組む班によりまったく異なる意見が生まれること。
- ・ 学生の意見がコアカリキュラムに組み込まれているということ。
- ・ 私（私たちのグループ）だけでなく、多くの方が同じような思いを持っていた事。
- ・ 今、薬剤師には薬を適正に処方するというような能力を求められていること。薬剤師として、患者さんだけでなく、後輩の薬剤師を教育するような能力も求められていること。
- ・ 処方権の実現に必要なこと。
- ・ 最終目標は何かということ。
- ・ 皆の将来について、色々聞くことが出来た。
- ・ 自分のやりたい事を再確認できた。
- ・ 教育の改 が順次行われていること。
- ・ 昨日と同様に多種多様な意見が飛び交っていた、その為話をまとめる際に、何を基盤にするか、重きを置くか、その重要性をよく知る事が出来た。
- ・ 皆が医療について様々な問題を感じていること。同じ問題に対しても、これだけ多くの人が集まれば様々なアプローチが考えられるということ。
- ・ 薬剤師の存在を今後変えていくために自分には何が出来るのか。
- ・ 医療における問題点には、薬剤師としてどうにかできる点とそうでない点があること。大きな目標を達成するためには、まず目の前にある小さな問題からとりくんで、今の自分にできることをしていこうと思いました。
- ・ 1 日目にあげた問題点について自分達のグループの統一意見に対して他のグループがどのように考えているのか、同じところ、違うところがありとても勉強になりました。
- ・ 全体のグループ討議で、話題にあがらなかった所（自分達のグループで）を知る事が出来ました。
- ・ 皆が高い志を持って、学習・行動をしていること、薬学・医療には多くの問題があり、すぐの解決には我々一人一人の行動（積極的な）が必要なこと。
- ・ 志を同じくする者の中でも、問題の焦点・重要度が異なること。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- ・ 答えがない問題だが、結局、コミュニケーション能力は、何を持って身についたと言えるのか、どうやって高めていくのかということが、これからも追究していくべきことだと感じた。

- ・ 薬剤師の在るべき姿。(医師に代わって薬を処方するのか?薬の専門家として OTC~医療用医薬品をマネジメントするのか?)
- ・ 薬害について。
- ・ みな、「知識がない」「アピールしていない」といっていたが、働いてみないと分からないと思うし、薬学については現場を除けばプロなはずなのに・・・と感じた。
- ・ 政策と医療の関わり方→難しい
- ・ 6年制教育を生かした薬の研究は出来るのか。
- ・ 各学問でのカリキュラムの違いで、感じ方が何事に関しても異なると思った。もっといろんな学校のシステムなどについても聞きたかった。
- ・ コミュニケーション力が身についているかどうか(大学間で差があるような気がしました)
- ・ 発言しにくかった。
- ・ ”心折れる”の定義。心折れる機会はいくつもありますし、時間がなくて意見できませんでしたが、実習以外でも研究を通してメンタルを強く持ったり職業研究を各自でしたり、教育の質の向上(病態など)で自信を持つことが出来ると思います。
- ・ 処方権を獲得すべきとの意見が多かったが、本当に皆そう考えているのか知りたい(私は処方権を獲得することに否定的なので)
- ・ 薬剤師は科学者(化学者)であるべきかどうか。→病院で患者さん中心に考えた時は臨床薬剤師であるから。
- ・ 「コミュニケーション能力」って何か。話すこと?聞くこと?なんだろうって思っていました。→関西人はコミュニケーション能力はあるってことでしょうか。
- ・ 地域、地方の過疎化についての問題。半強制的に地方へという話がいくつか出ていたが、期間が短く薬剤師が度々変わってしまうのも問題かと・・・。もっといい案、具体的で実現可能な案があれば良いと思った。
- ・ 処方権と薬剤師の役割についてどこまで薬剤師がみるのか(プチ医者になっては意味がない)莫大な情報の中で薬剤師として持つべき知識はなんなのか。(画像を詳しく読める必要はあるのか)
- ・ ここでのディスカッションが将来どのように現場に活かされていくのかがよく理解できませんでした。
- ・ 「勉強会」「研究」などの具体的な中身
- ・ コミュニケーション力を高めたり、薬剤師の地位高上などの課題を具体的にどう行動に起こしていくかが私達の課題だと思いました。
- ・ 薬剤師志望の人だと、研究開発、行政側の視点など、自分の進路以外の職種に対する考え方を理解するのは難しいので。
- ・ チーム医療として、現場での他の職種間での意識の共有はだいぶ進んでいると思う。大切なのは患者さんにもチームとして薬剤師として頑張っていると分かってもらうこと。介入しすぎて(もう既に医師に聞いてたりしたことをくり返し言うなど)患者の負担になると意味がないと思う。
- ・ 薬学会が現在の薬剤師のサポートのために具体的にどのような事を行っているのか知らないことに気づいた。

- ・ 地域密着医療の発表があったが、チェーン系の薬局等では店舗移動があるなど、何か解決策はあるのかと思った。
- ・ サイエンス面、医療の高度化に対する問題があまり出なかった（出せなかった）（1日目で2日目の話題がほぼ決まるので、違う話をしたくても1日目でレールが出来上がってしまう様に思いました）
- ・ 医療増大の問題対策
- ・ 薬剤師のアピール力を向上させることの意義
- ・ 早期実習の必要性（1年次）
- ・ 学生主権の討議での時間配分
- ・ 処方権や免許の更新について、認めるべきかどうか最後まで分かりませんでした。
- ・ アピールという言葉が目立ちましたが、他の医療スタッフに比べ薬剤師はここがすごい！！というような点をもっとあれば知りたかったです。（質問したかったです）
- ・ コミュニケーション能力が向上したと言われていたが、あと一歩踏み出す勇気が大切だと言っていたが、そこを問題意識としているなら、より改善出来るように考えてほしいと思った。もちろん個々レベルでの意識も大切だと思うが、全体のレベルアップとして考えてほしい。
- ・ コアカリの改正に自分たちは具体的に何をしていけば良いのか
- ・ 薬剤師の免許更新制度や処方権をめぐる問題についてももう少し討論出来ると良かった。
- ・ 時間があればもっと皆の話をききたかった（タスクフォースや卒業生 etc）
- ・ 前に出ることが苦手で、今回のチャンスでも前に出られなかったが、この学生生活のうちに必ずリベンジしたい。
- ・ 現場で働かれている人達の不満（の要因）
- ・ 学生と現場での出来ること。責任ある立場にならないとその区別が出来ない。
- ・ 多くの班が（自分の班も含めて）医療の一番の問題として薬剤師のことを挙げていた。ただ、他にももっと優先するべきことがあったのではないかと少しだけ気になりました。
- ・ 薬学教育について、どういう問題が挙がり、カリキュラムが変わったのか、過去の報告書を読みみようと思いました。
- ・ 時間の都合上、しょうがないこととは思いますが、1つのことに集中してしまい、他の意見が聞けなかったことは残念でした。
- ・ 地域医療への対応策
- ・ 薬剤師のコミュニケーション全体の能力は本当に高いのか
- ・ 大学病院においてどうすれば効率が良いか。現行のカリキュラムだけで十分であるのか。

7. 其他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- ・ それぞれの夢を知ることが出来、自分自身の将来も見つめ直すことができた。
- ・ 他大学の学生と意見を交換することで非常にモチベーションが上がった。
- ・ 考えたことを行動に移す勇気を残りの学生生活で身につけたい。
- ・ 色々な意見が聞けて良かったです。
- ・ 全員で討論して、みんなの意見を聞くことが出来て興味深かった。時間が足りません！
- ・ 1日目よりも、ディスカッションが良く行われたのではないかと思いました。

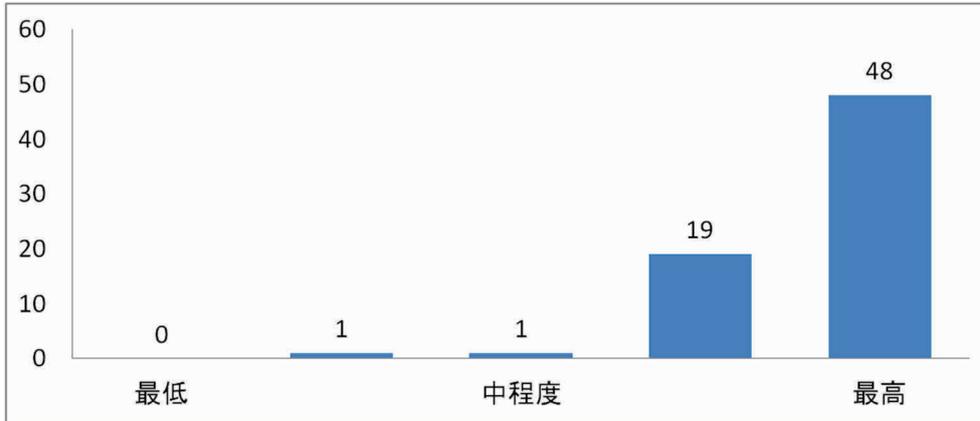
- ・ 年に1度といわず2度、6年生時のみと言わず、4,5年生でも行ってほしいと思いました。
- ・ 2日目は、1日目以上にスムーズにワークショップに入れた。
- ・ とても楽しかったです！楽しくてアンケートに書く時間が足りないほど楽しかったです。
- ・ タスクフォースをはじめ、関係者、皆さん、本当にありがとうございました！！
- ・ 自分は医師を目指しています。自ら医師になって、薬剤師との積極的なディスカッションとしてモテる病院作りをしたいです。
- ・ もう少し発言する時間が欲しい。
- ・ 人生の目的の1つ、「他の人の人生に有益な影響を与える」ことのできる、かつ、それを自分の人生のやりがいとして幸せを感じることでできる人間になりたい。
- ・ 問題に対するアプローチの仕方でも多くの薬学生とともに考えることが出来、今後の薬剤師の活躍がすごく楽しみになった。
- ・ 今日は全体のグループ（Ⅰ～Ⅲ）の意見を聞いてよかった。人数が多いので難しいことだと思うが、ⅠグループだけでなくⅡ,Ⅲも交えての討論の方が考えの幅が広がったと思う。
- ・ 昨日よりもSGDがスムーズに進行でき、グループの仲が深まったと実感した。
- ・ 意見交換会のおかげで、スムーズに楽しく討論出来た。
- ・ 楽しかったです。機会をいただけて感謝です。
- ・ 前日の夜の食事会で皆と打ち解けることが出来たので、昨日よりも討論が盛り上がったし、楽しかった！
- ・ 総合討論において前の質問に対するディスカッションがいつまで続くのか、切れ目が分かりにくかったです。
- ・ もっと討論会の時間が長ければ良いと思いました。
- ・ 討議時間が短い。
- ・ 問題抽出、解決策の考察を行うことで、自分の目標を実現するには何が必要かもう一度考える良い機会でした。
- ・ 本当に、薬学に関するだけでなく、ヒトとして、医療人としての考え方、個性を感じることができました。大学では味わえない刺激をうけていつもは消極的になってしまう自分でも、もっと現代を変えたい！と思えるようになれました。
- ・ 病院・薬局で働く薬剤師のほか、企業や行政で働く薬剤師に関する意見・議論が聞きたかったです。
- ・ 大学の教育の中では”幅広い領域での活躍”にも注目しているので、より多面的なディスカッションをしたかったです。
- ・ 様々な方の意見、考えが聞けて良かった。
- ・ 考え、実行することの大切さを感じました。勇気の一步を踏み出せるよう自分をみがいていきたいと思いました。
- ・ 総合討論を聞いて、もっと「この人と話をしたかった」と思ったが、もう終わってしまいますね。
- ・ 実現できたらいい事がたくさんあった。
- ・ 問題を挙げることも難しかったですが実現可能な対応策を考えることはもっと難しいと感じた。
- ・ 入学した週に早期実習があるため、実際に見てもあまりわからない部分が多く、次期を高学年にするのも良いと思った。

- ・ 楽しいWS だったです。
- ・ また情報も共有できたのでよい体験が出来た。
- ・ できれば、時間をもっと取ってほしかった。
- ・ 2日、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。社会に出て働く際も、今日のことを忘れずよりよい社会を築いていけるよう行動していきます。
- ・ 国家試験、OSCE など薬学部を学んできたことのフィードバック的なものがうまく臨床とからみあっていないところは非常に共感した。紙での勉強より実習で学べることが数倍はためになると思いました。
- ・ 他大学の学生の色々な考えや夢が聞けて刺激になった。
- ・ 非常に有意義な2日間になりました。先生方のご意見もいただけて良かったです。ありがとうございました。
- ・ 色々な職業に就く人、進学する人の意見を聞くことができ、すごく勉強になった。2日間お世話になりました。ありがとうございます。
- ・ 発表で時間超過をしてしまったので注意したい。
- ・ 現場の方々の声も聞きたかったです。
- ・ 昨日より、充実したディスカッションが出来たと思います。
- ・ 熱いディスカッションをありがとうございました。

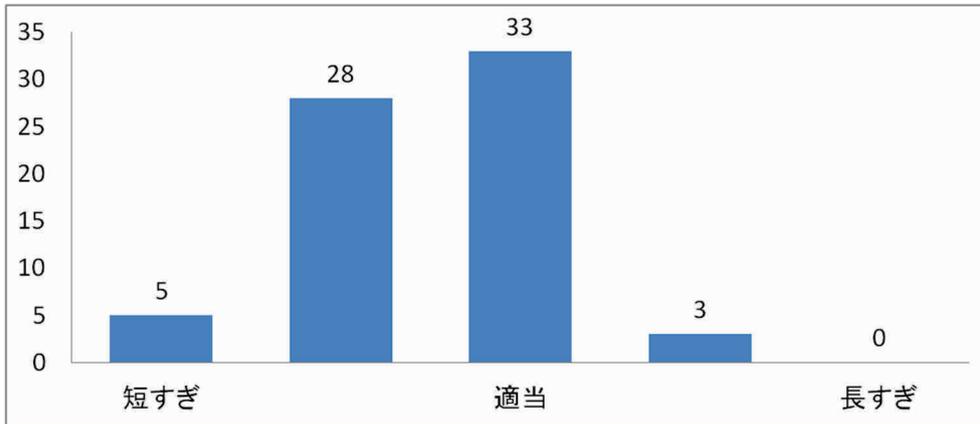
ワークショップ総合評価

1. 今回のワークショップを全般的に評価してください。

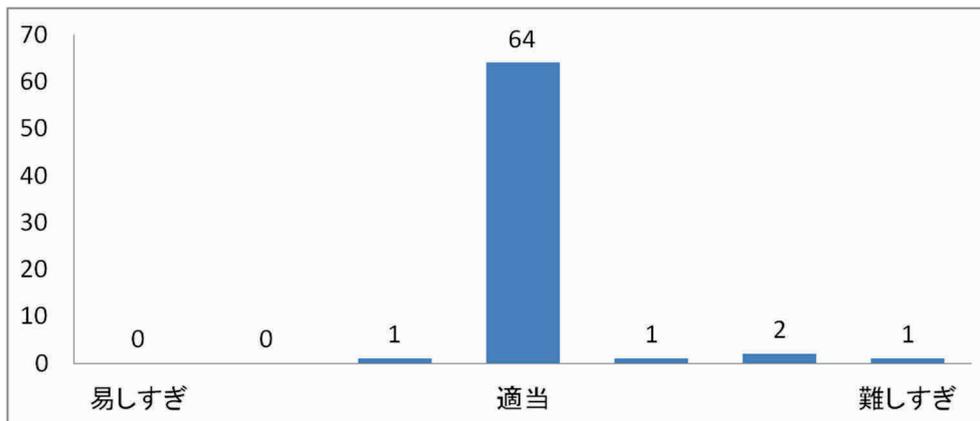
1) 内容の価値について



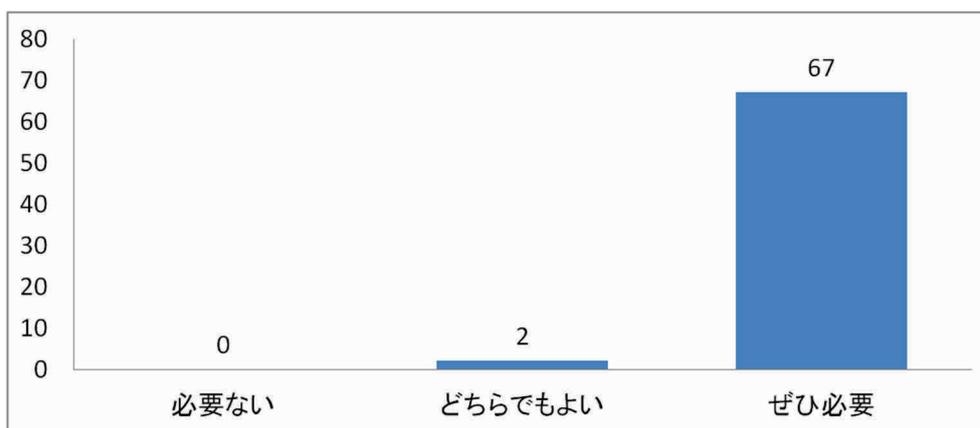
2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを継続することについて



2. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください。

- ・ 様々な人々の考えを知る事が出来た。(志など)
- ・ 全国の薬学生がテーマに対して考えていることが分かったこと。
- ・ 友達が増えた事。
- ・ 他大学の学生とこの時期に集まる事が出来て良かった。
- ・ 意識が違う人と交流することで自分の考えの幅が広がった。
- ・ 年齢・立場・関係なく話す事が出来た。
- ・ 他大学と交流することが出来、新しい考え方が得られる。
- ・ 普段、大学内では話題に上がらず、自分の心の中でモヤモヤしている内容を、皆がどんどん挙げて、ディスカッションされている姿を見てとても驚きながらも楽しかったです。
- ・ 情報交換の場を提供されることで、たいへん勉強になりました。将来的に学生や就職後もこのような環境は大切になってくると思います。
- ・ 学習指標が全く異なる薬学生とディスカッションをすることはほとんどありませんでしたが、今回を通じて多くの意見があり、統一するのも苦労するという事を学ぶことが出来ました。
- ・ 全国から意識の高い学生が集まって、質の高い討議が出来たことを大変嬉しく思います。今後ずっと付き合っていける仲間に出会えたと感じています。
- ・ 問題点として多くのグループが挙げていた他大学との交流・情報交換というものができた事はとても貴重な体験となりました。タスクフォースとしてボランティアで参加して下さった様々な方向の先輩方の意見を聞いて良かったです。
- ・ SGD と、全体発表の機会が多く、たくさんの経験ができた事。
- ・ 何よりも、全国の薬学生と出会うきっかけとなったことが良かったです。今回の出会いを大切にしてい、これから先の仕事などにも活かしたいと思います。
- ・ 色々な背景の人が個々に思っていること、考えている事を発信しあえたこと、それらをまとめて共有できた事。
- ・ 他の薬学生が思う考えを共有できて良かった。
- ・ 意識の向上になり、モチベーション UP
- ・ 考えの出し方や、発表の力がまたついたと思う。

- ・ 他大学の人と友達になれ、2日間討論をし、皆の考えていることを聞き、自分が考えていることをさらに深めることが出来た。
- ・ 他大学の学生と交流することが出来、普段とは違った視点からの意見や考え方を知る事が出来て面白かったです。
- ・ 他大学の話を聞いたこと、自分と異なる道を選んだ人の夢を聞いたこと、先生のお話もうかがえて、非常にためになった。
- ・ 初対面の人と打ち解けやすい環境づくりをしてもらえたこと。
- ・ ディスカッションをしやすい空間が出来ていた事。
- ・ 多くの学生、先生方と討論することが出来、直接多くの人に熱い想いを伝えられる。
- ・ 意識や目標を高く持つ人は、それだけ周りにも同じモチベーションを期待する。しかし、その期待の通り、周りの人のモチベーションが高くなくて、裏切られたような、肩透かしのような、ストレスを抱えることが多いと思う。今日は、意識の高い人材が集まって、学生が皆本当に楽しそうに生き生きしていた。明日からのやる気につながる有益なWSとなったに違いないと確信しています。
- ・ コアカリの策定や他大学の違いを知る事が出来た。
- ・ こんなにも自分の将来、現在の教育の問題について深い考えを持っている人達と Discussion したことがこれまでなく、自分の進路を決める参考になった。
- ・ 全国各地の薬学生と、実際に働かれているタスクフォースの方たちと情報を共有することができた。良い刺激をいただくことが出来た。
- ・ 学生が将来の医療を考える夢や希望に満ち溢れた素晴らしい機会であった。
- ・ ほとんど全ての薬学部が参加するという事で、横のつながりが広がったこと。
- ・ 他の学校の人の意見を聞くことで、視野を広げることが出来た。
- ・ 日本中に住む人との交流を持てる。
- ・ 様々な価値観を吸収できた。
- ・ アウトプット・教育の重要性を感じた。
- ・ 自分の思いを再確認できた。
- ・ 行動力の大切さを非常に感じた。
- ・ もっと考えを深めたい課題が見つかった。
- ・ 友達が増えた。
- ・ 専門的な事を学び、そのせいなのか視野が狭くなっていたのではないかと気付くことが出来た。
- ・ 薬剤師は完成された職業ではなく、これから色々な問題に向き合わなければならないと気付くことができた。
- ・ 学生の高さを共有
- ・ 全国の薬学生や現場の先生方と話をすることで、医療における問題について改めて考えることができた。また、多くの人がしっかりと意見を持っていることを知り、新たな着眼点を得るとともに、モチベーションが上がった。
- ・ 普段他の大学の学生と交流する機会が少ないので、今回のWSはとても良い経験となった。

- ・ 他の県の薬学生の意見を聞くことができ、考え方も人それぞれであることをきづかせてもらえるのでいいと思いました。
- ・ 普段お話しする事ができない、他大学の学生さんたちと意見交換できた事。
- ・ 横のつながりができてよかったです。様々な意見をきくことができ、自分の考えや価値観が変化し、モチベーションが上がりました。
- ・ 他大学について、また他大学の方について多くを知ることができました。
- ・ 他県の学生と、問題点、熱意を共有できた。
- ・ 他大学と、自分の大学との違いが、同じ思いを持っている学生と議論がかわせることができること。
- ・ 薬学部でも将来いろいろな職業に付く学生と交流ができて、自分の視野が大きくなって、再び、自分を見直すことができて良かった。
- ・ 地方の学生とも深いディスカッションができ、それぞれの観点から見た薬剤師や医療の問題点を知れたこと。
- ・ 受けている教育が違う人と同じテーマで話すことで、自分がいかに小さいところで物事を考えているのかわかりました。心が折れてもまた、がんばる人もいるのだなと、強い人もいると思いました。
- ・ 大学の特色と薬剤師に求められているニーズ、問題解決の方策について意見を共有できた。
- ・ モチベーションの高い多くの学生とそれぞれの思いの共有、共通の課題を抽出、解決策の検討を行うことで刺激をし合うことができたと思います。これからも、目標に向かって頑張れます。
- ・ 各大学でのカリキュラムの異なりや、ひとりひとりの考え方、目指すものについて話を聞くことができてよかった。
- ・ SGD の人数、多すぎず、少なすぎずで発言しやすかった。みんなの将来やりたいことなどの話、意見がきけて、とてもよかった。
- ・ 他大学での教育内容やそれに対する様々な意見に触れられたこと。病院や薬局で医療の担い手として働く予定の薬剤師の考え方を知ることができたこと。
- ・ 他大学の学生とかかわれて、モチベーションが上がった。
- ・ 他大学と交流をもてるだけでなく、向上心、知識、自分の考えがはっきりしている、さらにそれを表現（発表）できる人たちがせいぞろいで、本当に刺激的な2日間をすごすことができてよかった。
- ・ たくさんの同世代とは思えない、具体的で新しい意見を聴くことができた。木下先生のお話しはとても感動し、印象深かった。Professional として成功していきたい。
- ・ 全国各地の薬学生と交流し、意見を交わし共有することができました。大変刺激になりました。
- ・ いろんな大学の同志たちと意見を交えることができて人間的に成長できました。これらの意見を大学に帰ってきちんとフィードバックしたいです。
- ・ 非常にやる気に満ちた人々と接することで大きな刺激となった。
- ・ 物事を多角的に考えられるようになった。
- ・ 簡潔に自分の意見をまとめることの重要性を感じた。
- ・ 言いたいことを言えて、聞きたいことを聞けたような気がします。満足しました。
- ・ 全国の大学から1人ずつというのがすごくいい。同じ大学の人がいないので、
 - 交流を深めるのが楽しかった。
- ・ 所属、進路が全く異なる薬学生と意見交換ができ、かつ、交流も深められたこと。

- ・ 他大学の学生と交流ができ、意見を交わすことができるとも重要な経験となった。
 - 問題意識を共有できてよかった。
- ・ 初対面の人で集まり、「薬学教育の問題」という1つのテーマについてプロダクトを
 - つくれたこと。様々な職につこうとしている人と意見交換できたこと。
- ・ 色々な意見をきけたこと。
- ・ 活発な意見の交換。
- ・ 学生中心としたディスカッション。
 - タスクフォースの助言などがほとんどでなかったことなど
- ・ 私はどちらかというと免許が欲しいというのが理由で6年制に行き、就職先も免許を使わない職につきました。そのためあまり薬剤師の理想像についてなどはあまり考えたことはありませんでしたが、今回のワークショップでこんなにあつい薬剤師の卵がいることを知り非常に刺激を受けました。
- ・ 他大学との交流。
- ・ 教育カリキュラムの背景に関して知ることができた。
 - 社会的に何を望まれているのか
- ・ 就職前に自分を振り返ることができたことや他職につく人の考えをきくことができたことが収穫です。
- ・ ざっくばらんにお話しできる時間が長く、どう思っ学生生活を送っているかを共有できた。
- ・ 参加したこと。自分のやるべきことが増えた事。
- ・ 自分が抱えている将来への希望や不安を普段話している友人とは全く異なる全国各地の薬学生と共有したり、また新たな視点を吸収することが出来、大変有意義な時間でした。
- ・ 多方面に渡るお話が聞けた事。知識も増えましたが、何より心が育ったと思います。
- ・ 互いにコミュニケーション（他自己紹介やワールドカフェを経験）することで、スムーズにワークショップに入りこむことができた。
- ・ 他大学でどのような教育が行われているか、どんな学生が自分と同じように学んでいるかということを知る機会になった。
- ・ 他大学の学生や先生、先輩方の意見が聞け、とても良い経験になりました。
- ・ 何気ない大学生活を送ってきたが、多くの人の意見や考えに刺激を受け、改めて自分たちで薬剤師という職を盛り上げたいと思った。
- ・ 自分達の意見が未来につながりそして幸せな教育へと導かれる。最高です。

3. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。

- ・ 会場への移動が困難（大変）
- ・ 問題点というか・・・時間がもっとほしかった（切りがないですね）
- ・ 複数回開催しても良いと思う。それだけの価値はあると思う。
- ・ 時間がタイト。
- ・ 時間が少し長い気がしました。もう少し休憩時間をはさんでいただければより集中できると思います。

- ・ 2日間で課題に取り組むというのは、やはり難しいと思いました。学生が迷走している際、もう少しタスクフォースからのアプローチや助言があるとスムーズに話も進むのかなと感じます。
- ・ 話し合いの時間がもう少しあれば、もっと熟成させられたのかなとも思いました。
- ・ 総合討議で、もっと長く話したかったです。より多くの話題にふれたかったので、ひとつのテーマのMAXの時間を決めるなどしていただきたいかったです。あとは、タスクフォースの先生を途中で交換したりしてほしかったです。
- ・ 他の医療従事者のそっちよくな意見をききたいので、少数でも多学部学生/先生などの参加もお願いしたい。
- ・ 決められたグループでの活動が多く、話すことができない人が多かった。
- ・ 時間が短かった。
- ・ 学生の議論の中で少しずつテーマから離れていってしまうことが多かったように思います。
- ・ 難しいと思うのですが、プロダクト作成にもう少し時間をつかいたいです。
- ・ 時間が全て足りなかった。
- ・ 総合ディスカッションの時間が短い。
- ・ 現場の薬剤師もワークショップに入れて議論したかった。
- ・ 同じグループのみでの discussion が多かった。
- ・ 発言全くしない人もいたので、どのように各大学から選出されたのかが気になりました。
- ・ タスクフォースの方の意見をもう少しききたかった。
- ・ 先生からのプレッシャー。
- ・ どうしようもないが盛り上がるころに終了する。
- ・ 総合討論が短い。もっと発言していない人の話も聞きたかった。
- ・ こういった意識が高い学生以外への意識の上げかた。
- ・ 国家試験だけうけて免許だけとればいいと思っている人へどのようにフィードバックしていくのか考えなければいけないと思った。
- ・ こんなにすばらしいWSなのに、昨日ここに来るまでこのWSの存在を知らなかった事。(もっと知ってほしい)
- ・ もっと大勢の方とディスカッションしたかったです。
- ・ 時間が短い。
- ・ 時間が足りないこと。
- ・ 班ごとに議論する際にまだ、壁があったのですこし、長い時間、班での交流があってから議論すると、自分の素直な意見を発言できたと思った。
- ・ 結局同じグループの人を中心にしか交流を深められなかった。
- ・ 交流会以外にも色んな人とディスカッションできる場があれば良かった。
- ・ 薬学部を卒業して企業(研究、MRなど)、病院、薬局、公務員にすすむ方がいるにも関わらず、薬学生が実習を通して感じた現場に関してだけになっている気がします。
- ・ 質疑での話が細かすぎる所がある。もっとマクロな話題を考えられる場であっても良かった。
- ・ もう少し多くの学生と意見を交換できるじかんを長くして欲しい。
- ・ ワークの時間も長くして欲しい。

- ・ 討議に白熱しすぎて質問の数が少なくなってしまうため、なるべく手短に多くの質疑ができればよかったように思う。
- ・ もう少し早い段階で、一度部屋に荷物をおきたかった。
- ・ 夜の交流会の場所が不便だと思いました。
- ・ ワークショップ開催と経緯はわかりましたが、全体討論の後に先生方と話をして感想や思いを聞きたかったです。私たちの討論内容がどのように活かされているか知りたいです。
- ・ 初日はなかなかうちとけられずディスカッションがぎこちなかったので2泊3日に・・・。
- ・ 同じ人の発言がどうしても見られてしまう。
- ・ 発表者が時間がわかるようタイマーなどを持たせて欲しい
- ・ 本 WS の周知。
- ・ もっとタスクフォースの人と話をしたかったし、ディスカッションしたかった。
- ・ 総合討論の時間が少し短いと感じました。
- ・ 内容が似ているプロダクトがいくつもあったこと
- ・ 時間のスケジュールがタイトで、もう少し余裕をもたせて欲しかったです。
- ・ ディスカッション発表するまでにあたり、発表資料を作製する時間がもう少しとれると、もっと掘り下げることのできるポスター等ができるように、他の班のものを見て思った。
- ・ お昼すぎとかに途中で1回部屋に行って休憩する時間が欲しかったです。
- ・ もっとグループをかえて、色んな人と討論したかった。
- ・ 現在この WS に集まっている人はおそらく学校内でトップレベルの人たちです。成績が悪い人の意見（現実的に難しいと思いますが）をきくこともコアカリの問題点を知る上で重要なのではないかと思います。
- ・ 夜が長くて、2日目少しつらかった。
- ・ 密に関われる学生が少なくなってしまう。
- ・ 時間が短かったのもう少し時間が欲しい。
- ・ C班の情報交換の場所がはなれていてさびしかった！
- ・ SGDの討論時間がもっと欲しい。
- ・ 最後の討論はもう少し時間をとってほしいと思う。
- ・ “薬剤師”以外の職につく学生も多いので、“薬剤師”にとらわれない見方ができるとよりよかったかなと思います。

4. その他の意見（ご自由に）。

- ・ 今回のことをぜひ何かの形でフィードバックしたいです。
- ・ 良い刺激を受けることができました。次回がありましたら、時間の限り参加したいと思います。
- ・ 良い経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。大学にもどって、またこれからの自分の人生にも生かしたいと思います。
- ・ 今回の経験を同級生、後輩にも伝えていきたいと思います。貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

- ・ このような機会を設けていただきありがとうございました。今後、自分の目標達成に向けがんばります。
- ・ 2日間とても充実した日を過ごせました。このような機会を下さり、ありがとうございました。
- ・ 大変刺激的で楽しめました。ありがとうございました。
- ・ 「学生1人」ではなく、もっと大規模にやりましょう！！
- ・ 今回このワークショップに参加することができとても良かったです。準備をしていただいたタスクフォースの先生方、先輩方ありがとうございました。
- ・ 大変有意義な時間がすごせてよかったです。
- ・ 参加までワークショップのことを知らなかったので学校にもどって周りにもひろめ、みんなで考えていきたいと思う。
- ・ 1泊2日の長い間（短い間）、ご指導くださいました先生、タスクフォース見習いの方に御礼申し上げます。ありがとうございました。
- ・ 最高に楽しい時間でした。
- ・ とても有意義でした。ありがとうございました。
- ・ 最高！
- ・ 貴重な機会をいただきありがとうございます。いつか教育やこのような WS を企画することができるような知識や幅広い価値感を身につけようと思います。
- ・ もっと回数があってもいいのではないかと思うほど充実していました。
- ・ 今回のワークショップに参加させて頂き、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・ 楽しい2日間でした。ありがとうございました。
- ・ このようなワークショップの機会をもっと増やしてほしいと思います。
- ・ 本当に楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ このような WS には初めて参加させて頂きましたが、非常に貴重な体験であり、友人や後輩に伝えたいと思います。
- ・ 今日の内容ではできませんでしたが、薬局実習について、僕の行った薬局はすばらしい先生に経営から調剤、医療制度まで教えていただきました。しかし後輩の行った薬局ではずっと予製等をさせられております。難しい問題ですが、この様な問題を解決する仕組みが必要なのではないでしょうか？
- ・ アドバンスト意見交換会で多くの熱い思いをきけて、自分ももう少し熱くなるべきかなと思いました。
- ・ パネルディスカッションを導入してほしい。
- ・ 総合討論に入る際、全員の思う所を A4 紙に短くまとめたやつを壁に張り、話したい人と深い話をするとか。
- ・ 実習期間の充実、新しい授業の導入は必要だと思うが、このままでは薬学部が専門学校化する。研究できる環境をつくるのも大切。
- ・ とても、有意義なワークショップでした。
- ・ 2日間お世話して下さったタスクフォースの皆様方、ありがとうございました。

- ・ 今回、全体での発言はできなかつたですが、すばらしい意見、考え、提案、卒業生のその後をきいて吸収できたので、しっかりもちかえって、還元したていきたいです！！
- ・ この WS に大学から選出してもらえて本当によかつたと思います。ディスカッションもいつもはだるい空気になるところ、このメンバーでの話し合いは自分の意見をしっかりと受けいれてもらえるし、反対意見もはっきりもらえて楽しかつた。さいごの発表はどの班も思いつかないようなことをどんどん提案して、質問もたくさんとびかかつて、すごく興奮しました。ありがとうございました。
- ・ テーマ設定は、とても多くのことがからんでいる内容で、より深く考えるきっかけとなりました。ディスカッションの前に、各班で問いに対する定義を定めた方が良かつたでしょうか・・・？話が広くなり難しかつたです。
- ・ 様々な方の意見を聞くことができたので、その内容を自分の中で吟味したり、参考にしたりして、また他の仲間ともディスカッションしたいと思った。
- ・ タスクフォースの皆さん、ありがとうございました。
- ・ 機会をいただき、感謝です。
- ・ 来年は見習いとして参加してみたいです。
- ・ 大変貴重な出会いと経験をさせて頂きました。ありがとうございました。
- ・ もう少し長い時間が欲しい。
- ・ 楽しく取り組みました！ありがとうございました。
- ・ 同じ点について討論しても、薬学生間で意見がちがったり、グループが変わると、意見がちがったりと、おもしろかつたです。
- ・ お酒が苦手だったので、夜が少し長いと感じました。
- ・ 本当に充実した二日間で、こんなにはなしても、時間がたりないと感じました。先輩薬剤師の方々のお話をきくことができ、自分で将来目指したい像を改めて考えることができました。二日間本当にありがとうございました。
- ・ 話が、病院・薬局にかなり偏っていて、もっといろいろな分野で活躍できると思うので、そういった部分も大事ではないかと思いました。
- ・ ぜひ来年もかいさいして下さい。
- ・ 楽しすぎて1泊2日じゃ足りない！！
- ・ 今までで一番楽しいSGDでした。
- ・ 今回、WSに参加できたことは私にとって貴重な経験になりました。今後の自分に活かせるよう、日々の勉強等を大切にしたいです。
- ・ とても楽しかつたので、もっと意見交換できる時間があれば良いなあと思います。
- ・ 疲れましたが、でも、それ以上に幸せでした。今日出会えた仲間、先輩、先生に感謝です。

日本薬学会第4回全国学生ワークショップ実行委員会

入江 徹美	(熊本大学)
大津 史子	(名城大学)
大野 尚仁	(東京薬科大学)
賀川 義之	(静岡県立大学)
亀井 美和子	(日本大学)
川崎 郁勇	(武庫川女子大学)
木内 祐二	(昭和大学)
河野 武幸	(摂南大学)
小佐野 博史	(帝京大学)
塩田 澄子	(就実大学)
◎ 鈴木 匡	(名古屋市立大学)
高橋 寛	(佐野薬局)
徳山 尚吾	(神戸学院大学)
中村 明弘	(昭和大学)
橋詰 勉	(京都薬科大学)
長谷川 洋一	(名城大学)
平田 收正	(大阪大学)
安原 智久	(摂南大学)

(◎ : 委員長)

発行 2015年1月

公益社団法人 日本薬学会

薬学教育委員会

日本薬学会第4回全国学生ワークショップ実行委員会